

RI*WAC

Research Institute for Women and Careers

日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJO0013
調査タイトル	通信教育課程卒業生に対する調査
論文／雑誌名	「日本女子大学通信教育課程卒業生に関する調査」『日本女子大学通信教育課程卒業生に関する調査』
著者	日本女子大学女子教育研究所
掲載ページ	pp.2-47.
発行年	1991.03
出版社	日本女子大学女子教育研究所

日本女子大学通信教育課程
卒業生に関する調査

日本女子大学女子教育研究所

目 次

はじめに	
一、日本女子大学通信教育課程卒業生の概況	2
1. 入学生・卒業生の推移	2
2. 卒業生の状況	3
二、日本女子大学通信教育課程卒業生に対する調査	6
1. 調査の概況	6
2. 調査対象者の特性	7
(1) 専攻学科	7
(2) 入学時の年齢	7
(3) 出身校	8
(4) 在学期間	8
(5) 出身地	9
(6) 入学時の家族構成	9
(7) 入学時の職業	9
三、入学動機	10
(1) 大学教育を受ける理由	10
(2) 通信教育課程選択理由	11
(3) 日本女子大学選択理由	11
(4) 学科選択理由	12
四、在学中の学習について	13
(1) 満足度	13
(2) 学習継続上の問題点・改善点	16
(3) 学習方法の問題	18
(4) 学習施設・設備の不備	20

五、卒業後の生活	20
1. 職業生活	20
(1) 現在の職業	21
(2) 教員免許の取得について	22
(3) 通信教育課程卒業の効果	24
2. 家庭生活	25
3. 社会活動	27
4. 学習について	31
(1) 学習形態	31
(2) 学習理由	32
(3) 学習内容	32
六、生涯学習への期待	34
七、今後の課題	35
おわりに	39
資料 調査票	40

日本女子大学通信教育課程
卒業生に関する調査

一、日本女子大学通信教育課程卒業生の概況

1. 入学生・卒業生の推移

昭和63年4月現在、卒業生総数は4,778名である。

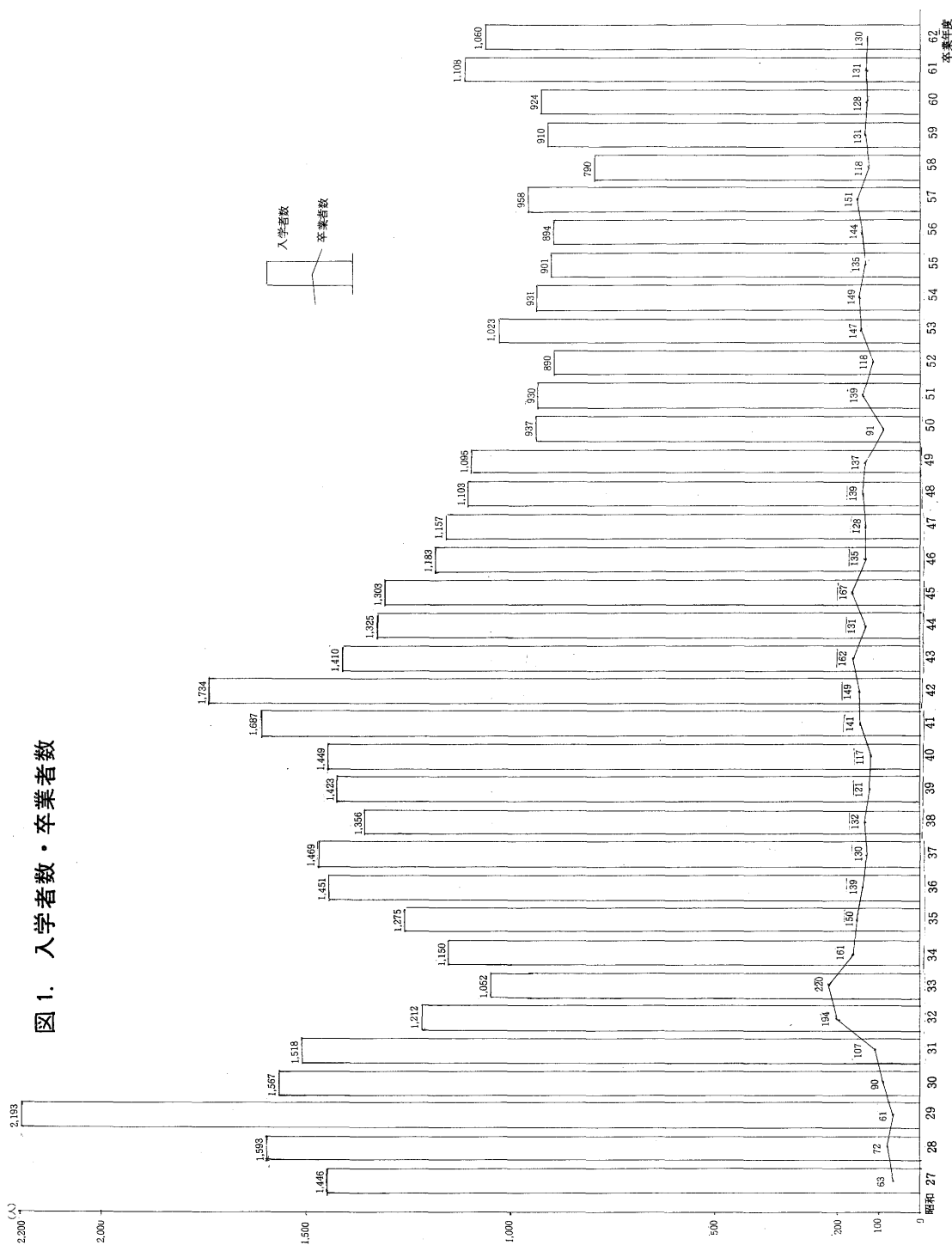


図 1. 入学者数・卒業者数

図1のように、入学者は日本女子大学通信教育課程発足三年後の昭和27年には1,446名を数え、29年にはそのピークを迎え2,193名となった。その後増減をくり返し、ここ5、6年は再び増える傾向にあり、毎年1,000名を超える入学者がある。

卒業生は昭和33年までは増加傾向を示し、その後は増減をくり返し、54年以降は120～150名で、入学者の1～2割にとどまり、通信教育課程の「入学は易しいが、卒業はむづかしい」状況がうかがえる。

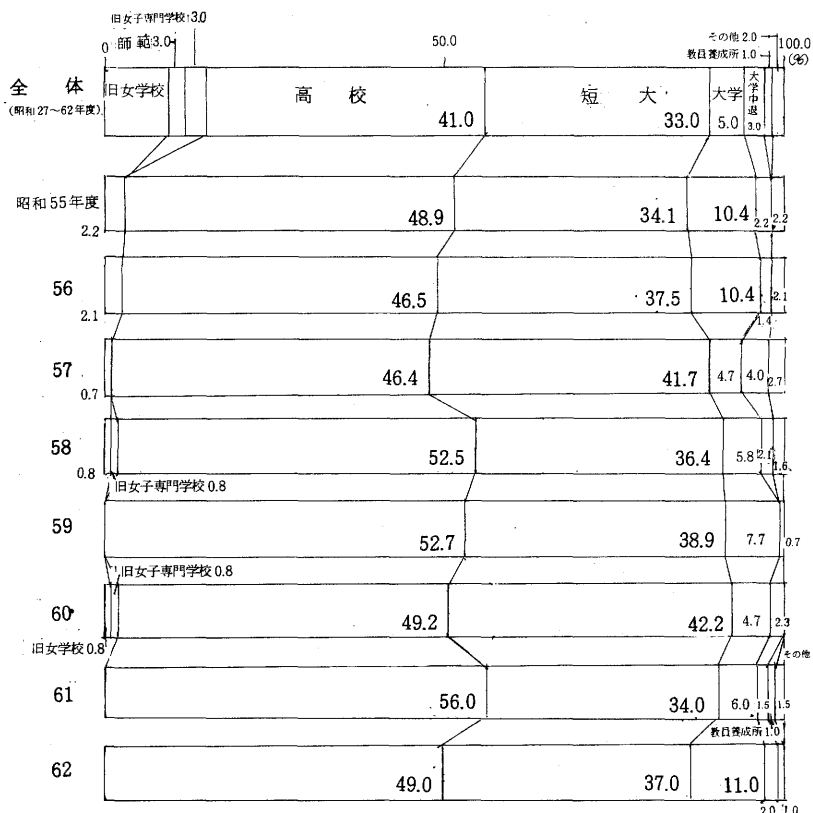
2. 卒業生の状況

昭和55年から62年までの卒業生の状況を、出身校（通信教育課程入学までの最終学歴）、在学年数、卒業時の年齢、卒業時点での職業についてみよう。

・出身校

「高等学校」からの進学者が最も多いが、近年、「大学」「短期大学」等の高等教育機関からの入学者が増加し、出身校を「高等学校」と二分する程となっている。（図2）

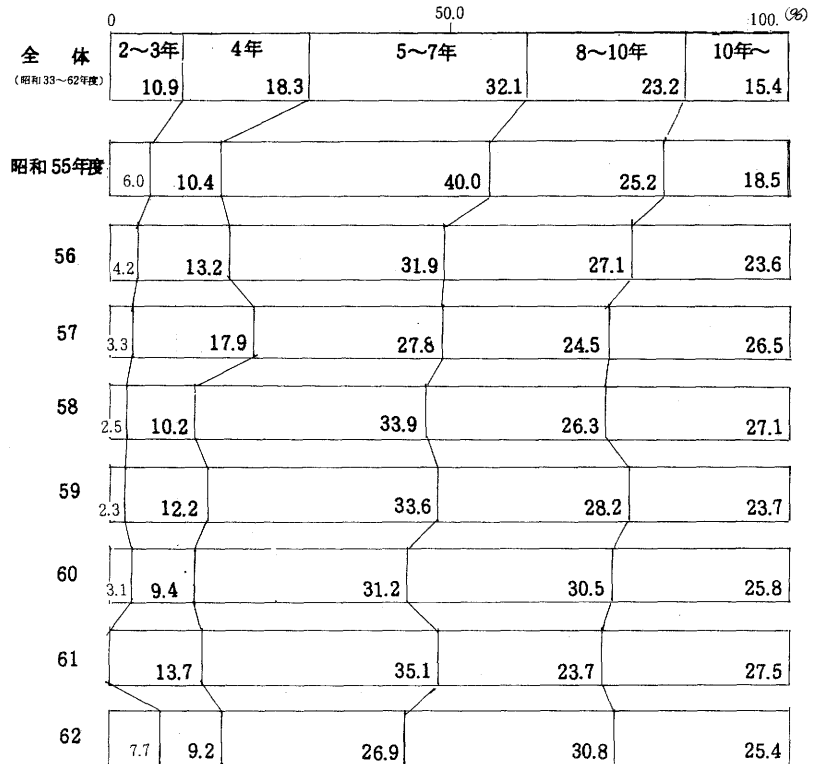
図2. 出身校



- 在学年数

2年間から10年間以上とかなり幅があるが、約半数の者が4～7年間の内に卒業している。(図3)一方10年以上の者も2割を超えるなど、在学年数は概して長く、通学課程とは異なった様相を示している。

図3. 在学年数



- 卒業時の年齢

30歳代が最も多く、40代、20代がこれに続いている。(図4)一方50代以上の者が3割も含まれているのは通信教育課程の特色といえよう。

- 卒業時点での職業

職業を持ちながら学んだ者たちの中では、「教員」の占める割合が高い。(図5)しかしながら近年、職業をもたない「主婦」の増加とともに「教員」の減少がみられる。

図 4. 卒業時の年齢

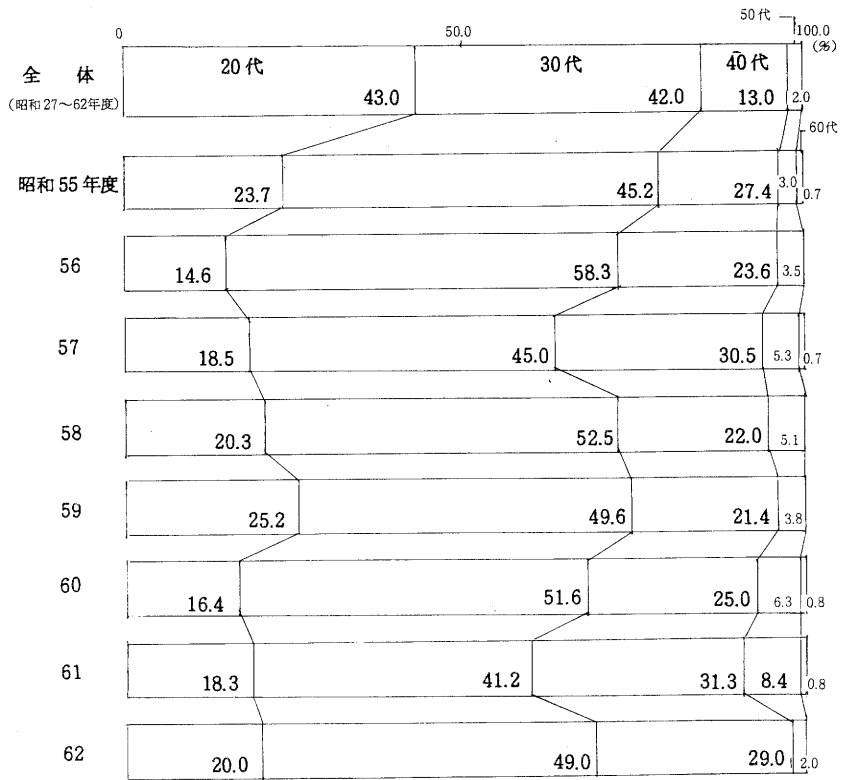
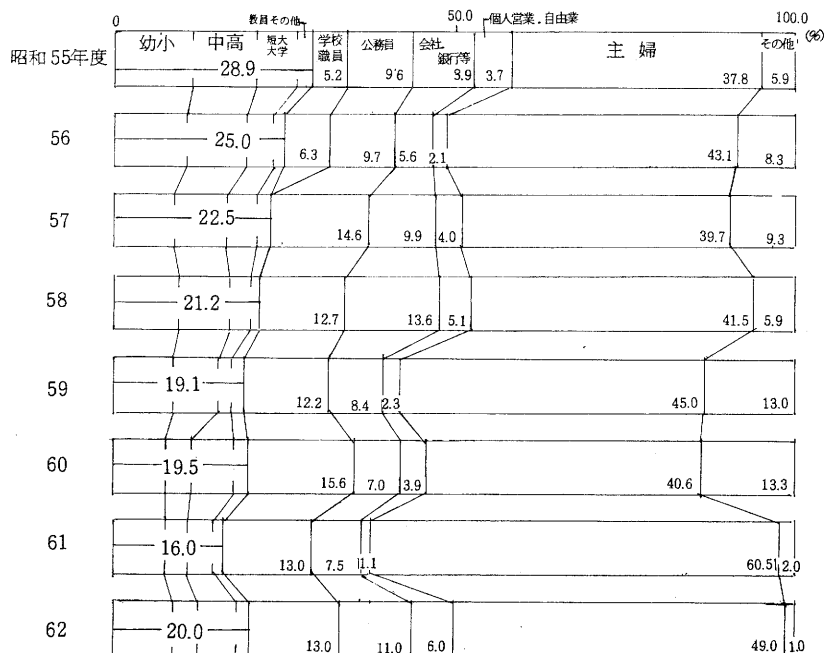


図 5. 卒業時の職業



二、日本女子大学通信教育課程卒業生に対する調査

1. 調査の概況

<調査期日>

昭和63年 3月20日～ 4月20日

<調査対象者>

昭和28年 3月から63年 3月までに通信教育課程を卒業した者を対象とする
全数調査である。卒業生総数は、桜楓会名簿によれば 4,778名であるが、
住所不名者、すでに故人となった者を除き、今回の調査ではこのうち 3,745
名が対象となった。

<調査方法>

質問紙を調査対象者に直接郵送し、配布20日後を回収日と定めた。

回収状況は次の通りである。

調査票発送部数	3,745
有効回収部数	1,852
返却部数	51
未回答および無効回答部数	87
回収率	49.5%

集計、表の作成については、コーディング作業後、自由記述式の回答部分
は手集計を、その他の部分は機械集計を行った。

調査結果は、卒業回生別、専攻学科別に検討した。回生については、次の
四期に区分した。

- ① 1～10回生 (昭和28年 3月卒業～ 37年 3月卒業)
- ② 11～20 " (昭和37年 9月卒業～ 47年 3月卒業)
- ③ 21～30 " (昭和47年 9月卒業～ 57年 3月卒業)
- ④ 31～36 " (昭和57年 9月卒業～ 63年 3月卒業)

また、専攻学科は、次の通りである。

- ① 児童学科
- ② 食物学科
- ③ 生活芸術学科

回生別、専攻学科別回収率は表1で示した。

<調査項目>

本調査は大別すると、在学中の学習、卒業後の生活から成っている。在学中の生活においては、入学者の概況、入学動機、満足度、学習上の問題点、改善点等が含まれている。卒業後の生活では、職業生活、家庭生活、社会活動、学習活動等についてたずね、最後に生涯教育の一環としての通信教育について意見を求めた。

2. 調査対象者の特性

ここでは、調査対象者を専攻学科、入学時年齢、出身校、在学期間、出身地、入学時の家族構成、入学時の職業等からみよう。

(1) 専攻学科

専攻学科別内訳は、表1に示すように、児童学科および食物学科がそれぞれ4割を占め、残りの2割が生活芸術学科である。

回生別にみると、20回生までの古い回生では食物学科の占める割合が高く、4割を超していたが、近年では児童学科の増加傾向がみられ、最近は5割に達している。

表1. 専攻学科

【回生】	合計	児童学科	食物学科	生活芸術学科
【合計】	1852 100.0	731 39.5	687 37.1	434 23.4
1～10回生	478 100.0	146 30.5	204 42.7	128 26.8
11～20回生	443 100.0	139 31.4	183 41.3	121 27.3
21～30回生	522 100.0	239 45.8	175 33.5	108 20.7
31～36回生	409 100.0	207 50.6	125 30.6	77 18.8

注)

1～10回生
昭和28年3月卒業～
37年3月卒業
11～20回生
昭和37年9月卒業～
47年3月卒業
21～30回生
昭和47年9月卒業～
57年3月卒業
31～36回生
昭和57年9月卒業～
63年3月卒業

(2) 入学時の年齢

入学者は19歳未満から、60歳台まで、広い年齢層に渡っている。全体的には、「20～50歳」の20代前半が最も多く、4割に及ぶ。(表2)

しかし最近では、「31歳以上」の入学者の増加が目立ち、逆に25歳以下の若い入学者は減少傾向にある。

表 2. 入学年齢

【回 生】	合 計	19才 未満	20～ 25才	26～ 30才	31～ 35才	36～ 40才	41才 以上	無 答
【合 計】	1852 100.0	189 10.2	801 43.3	377 20.4	235 12.7	123 6.6	69 3.7	58 3.1
1～10回生	478 100.0	77 16.1	254 53.1	73 15.3	40 8.4	8 1.7	6 1.3	20 4.2
11～20回生	443 100.0	50 11.3	200 45.1	102 23.0	50 11.3	19 4.3	6 1.4	16 3.6
21～30回生	522 100.0	43 8.2	204 39.1	115 22.0	73 14.0	39 7.5	28 5.4	20 3.8
31～36回生	409 100.0	19 4.6	143 35.0	87 21.3	72 17.6	57 13.9	29 7.1	2 0.5

表 3. 出身校

【回 生】	合 計	旧制女学 校	師範学校	旧女子 専門学校	全日制 高校	定時制 高校	通信制 高校	高等専門 学校等	短期大学	四年制 大学	大・短・ 高専中週	大検合格	教員養成 所	臨時教員 養成所	その他	無 答
【合 計】	1852 100.0	138 7.5	70 3.8	78 4.2	571 30.8	51 2.8	16 0.9	81 4.4	671 36.2	65 3.5	32 1.7	-	14 0.8	43 2.3	21 1.1	1 0.1
1～10回生	478 100.0	98 20.5	61 12.8	60 12.6	91 19.0	12 2.5	2 0.4	4 0.8	104 21.8	4 0.8	5 1.0	-	1 0.2	29 6.1	7 1.5	-
11～20回生	443 100.0	25 5.6	5 1.1	14 3.2	149 33.6	13 2.9	3 0.7	14 3.2	187 42.2	6 1.4	10 2.3	-	6 1.4	8 1.8	3 0.7	-
21～30回生	522 100.0	14 2.7	3 0.6	2 0.4	178 34.1	15 2.9	7 1.3	36 6.9	210 40.2	32 6.1	8 1.5	-	4 0.8	5 1.0	7 1.3	1 0.2
31～36回生	409 100.0	1 0.2	1 0.2	2 0.5	153 37.4	11 2.7	4 1.0	27 6.6	170 41.6	23 5.6	9 2.2	-	3 0.7	1 0.2	4 1.0	-

(3) 出身校

出身校は表3のように、「短期大学」が最も多く、4割弱を占める。先にみたように、本学の通信教育課程全体では「高等学校」が50%に達しているが、今回の対象者は高等教育修了者が若干多いと言える。

出身校と回生の関係のみてみよう。10回生までは、旧制女学校、師範学校出身の者たちの入学が目立っている。これに対し、近年は高等教育修了者（高等専門学校、短期大学、大学）の増加がみられ、特に20回生以降では50%以上を占めるに至っている。

専攻学科別にみると児童学科は他の2学科に比べて、高等学校出身者の占める割合が高い。

(4) 在学期間

通信教育課程の場合、もともと出身校や取得単位数によって修業年限は2年～4年と幅があるが、実際の在学期間は2年～10年以上にまで及んでいる。その約半数が4～6年で卒業しているが表4に示すように9年以上かかって卒業した者も約2割いる。

表 4. 在学期間

	合 計	2～3年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9～10 年	11～ 15年	16年 以上	無 答
【合 計】	1852 100.0	108 5.8	270 14.6	353 19.1	295 15.9	180 9.7	145 7.8	187 10.1	156 8.4	74 4.0	84 4.5

在学期間「9年以上」の者についてみると、25歳以前に入学し、しかも入学時には独身または夫婦だけで子どものいない者が目立っている。

回生でみると20回生までの古い回生では、6年位の在学期間で卒業する者が大部分を占めていたが、近年では「9年以上」かけて卒業する者が増えている。

(5) 出身地

学生の出身地は関東地方を中心に北海道から九州まで広範囲に渡っている。

しかし、近年は関東地方出身者が多くみられる。(表5)

表 5. 出身地

【回 生】	総 数	北海道	東 北	東 京 都	神 奈 川 県	千 葉 県	埼 玉 県	その 他 の 関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	無 答
【合 計】	1852 100.0	91 4.9	137 7.4	407 22.0	107 5.8	95 5.1	78 4.2	85 4.6	282 15.2	126 6.8	200 10.8	57 3.1	148 8.0	39 2.1
1～10回生	478 100.0	19 4.0	54 11.3	62 13.0	10 2.1	11 2.3	9 1.9	21 4.4	96 20.1	36 7.5	70 14.6	26 5.4	55 11.5	9 1.9
11～20回生	443 100.0	31 7.0	44 9.9	81 18.3	17 3.8	10 2.3	13 2.9	21 4.7	67 15.1	31 7.0	65 14.7	16 3.6	36 8.1	11 2.5
21～30回生	522 100.0	21 4.0	22 4.2	146 28.0	36 6.9	42 8.0	15 2.9	26 5.0	79 15.1	37 7.1	46 8.8	11 2.1	30 5.7	11 2.1
31～36回生	409 100.0	20 4.9	17 4.2	118 28.9	44 10.8	32 7.8	41 10.0	17 4.2	40 9.8	22 5.4	19 4.6	4 1.0	27 6.6	8 2.0

(6) 入学時の家族構成

入学時の家族構成についてみよう。両親と一緒に生活している者が最も多く(29.3%)、次いで結婚し、子どものいる者(24.5%)、独身(16.5%)の順である。結婚し、子どものいる者では、夫と子どもの家族がその7割に達しており、夫もしくは自分の親と同居している三世代家族よりも圧倒的に多い。

(7) 入学時の職業

職業を継続しながら入学する者が非常に多く、75.3%である。(表6)が近年は減少傾向を示している。

職種としては、「中高教員」を中心とした幼小、大学、短大も含めた「教員」が多く6割に達する。しかしながら近年は職種にも変化が見られ、「民間企業勤務」、「栄養士」「看護婦・保母」「大学・短大教員」「公務員」等その職種は多様化している。このことは、卒業年次の新しい回生ほど顕著である。

このように入学時の職業からも近年の入学者の変化がうかがえる。(表7)

表 6. 入学時の職業

【回 生】	合 計	あ る	な い	無 答
【合 計】	1852 100.0	1394 75.3	457 24.7	1 0.1
1～10回生	478 100.0	416 87.0	62 13.0	-
11～20回生	443 100.0	338 76.3	105 23.7	-
21～30回生	522 100.0	369 70.7	152 29.1	1 0.2
31～36回生	409 100.0	271 66.3	138 33.7	-

表 7. 入学時の職種

【回 生】	合 計	大・短 教員	中・高 教員	幼・小 教員	教員・ その他	栄養士・ 看護婦・ 保母	学校職員	公務員	民間企業 勤務	その他 専門職	自営業（ 手伝い） ・ 塾	その他	無 答
【合 計】	1394 100.0	137 9.8	355 25.5	216 15.5	126 9.0	94 6.7	72 5.2	79 5.7	114 8.2	41 2.9	48 3.4	14 1.0	98 7.0
1～10回生	416 100.0	21 5.0	162 38.9	91 21.9	25 6.0	16 3.8	19 4.6	19 4.6	12 2.9	3 0.7	10 2.4	2 0.5	36 8.7
11～20回生	338 100.0	32 9.5	99 29.3	49 14.5	23 6.8	20 5.9	22 6.5	17 5.0	28 8.3	7 2.1	9 2.7	7 2.1	25 7.4
21～30回生	369 100.0	40 10.8	65 17.6	47 12.7	48 13.0	33 8.9	18 4.9	23 6.2	39 10.6	15 4.1	17 4.6	3 0.8	21 5.7
31～36回生	271 100.0	44 16.2	29 10.7	29 10.7	30 11.1	25 9.2	13 4.8	20 7.4	35 12.9	16 5.9	12 4.4	2 0.7	16 5.9

三、入 学 動 機

ここでは、どのような理由から大学教育を受けようと思ったのか、通信教育課程を選択した理由、また特に日本女子大学を選択した理由、さらに学科選択理由等から通信教育課程への入学動機をみよう。

(1) 大学教育を受ける理由

表 8 に示すように、「大学卒業の学歴、資格を得たい」が最も多く、回答者の 2 人に 1 人の割合である。次いで「専門的知識、技術」「教養を高める」「職業上の資格取得」の順である。

表 8. 大学教育を受ける理由

(MA)

【回 生】	合 計	大学の 学歴・ 資格	専門的 知識・ 技術	教養を 高める	まわりが 行ってい る	社会的 視野の 拡大	生きがい	上級の 資格取得	職業上の 資格取得	生涯学習	その他	無 答
【合 計】	1852 100.0	939 50.7	696 37.6	468 25.3	4 0.2	207 11.2	114 6.2	204 11.0	415 22.4	224 12.1	40 2.2	9 0.5
1～10回生	478 100.0	238 49.8	193 40.4	134 28.0	2 0.4	44 9.2	27 5.6	55 11.5	103 21.5	40 8.4	14 2.9	2 0.4
11～20回生	443 100.0	214 48.3	177 40.0	103 23.3	-	38 8.6	24 5.4	62 14.0	114 25.7	39 8.8	7 1.6	3 0.7
21～30回生	522 100.0	257 49.2	189 36.2	135 25.9	2 0.4	63 12.1	37 7.1	47 9.0	123 23.6	70 13.4	13 2.5	2 0.4
31～36回生	409 100.0	230 56.2	137 33.5	96 23.5	-	62 15.2	26 6.4	40 9.8	75 18.3	75 18.3	6 1.5	2 0.5

回生別にみると、近年「生涯学習」や「社会的視野を広げる」ために入学する者が増え、他方「専門的知識、技術」や「職業上の資格取得」は減少傾向にある。これに対し「大学卒業資格を得たい」の場合、回生による差はそれほど見られない。

学科別に見ると、食物学科では他の2学科と異なり「専門的知識・技術」を得たいという理由で入学する者が多い。

通信教育課程では入学に際し出身校、またその取得単位の認定等により、一年次への入学、編入学、学士入学と3通りの入学形態がある。一年次入学では「大学卒業の資格」や「教養を高める」が多く「専門的知識・技術」は少ない。これに対し編入学、学士入学では「専門的知識・技術」や「上級の資格取得」「職業上の資格取得」をあげる者が多く、明確な目的をもったの入学といえよう。

なお、参考までに私立大学通信教育協会が実施した「大学通信教育・学生生活実態調査」（昭和58年度）(注1)の入学動機をみると、「職業上の資格または知識を得るため」が最も多く（46.4%）、次いで「教養のため（大学で学びたいから、生涯教育・再学習のためを含む）」（22.3%）である。「大学卒業資格取得のため」をあげる者は20.4%と、本学の場合に比べると少ない。

（注1）この調査は昭和58年の夏期スクーリングに出席した学生（12大学—法政・慶応義塾・中央・日本女子・玉川・日本・仏教・近畿・東洋・明星・大阪学院・創価）を対象としている。

(2) 通信教育課程選択理由

表 9. 通信教育課程選択理由

	合計	入学しやすい	いつでも学べる	どこでも学べる	だれでも学べる	能力に応じて学習	家庭・仕事に応じて学習	経費が安い	その他	無答
【合計】	1852 100.0	137 7.4	198 10.7	195 10.5	38 2.1	31 1.7	1083 58.5	55 3.0	91 4.9	24 1.3

「家庭や仕事の事情に応じて学習できるから」が多く約6割に達する（表9）。通信教育のメリットとして「いつでも」「どこでも」「だれでも」学習できるという要素があげられるが、「家庭や仕事の事情に応じて学習できる」は上記の3要素を含んでおり、ここに回答が集中したものと思われる。

(3) 日本女子大学選択理由

「希望する学科があったら」が多く、次いで「校風」「職業上の資格取得」

と続き、はっきりした学習動機から本学を選択していると思われる（表10）。
また「卒業生に勧められて」という者も1割弱いる。

学科別にみると、食物学科と生活芸術学科では「希望する学科があったから」が多いのに対し、児童学科では「希望する学科があったから」とならんで「校風」が多く若干違いがみられる。

表 10. 日本女子大学選択理由

【専攻学科別】	合 計	校 風	希望学科	職業上の資格	上司・教師の勧め	卒業生	通学の便	新聞広告	その他	無 答
【合 計】	1852 100.0	380 20.5	662 35.7	262 14.1	107 5.8	175 9.4	83 4.5	29 1.6	42 2.3	112 6.0
児童学科	731 100.0	190 26.0	198 27.1	93 12.7	43 5.9	77 10.5	58 7.9	11 1.5	17 2.3	44 6.0
食物学科	687 100.0	107 15.6	296 43.1	101 14.7	34 4.9	69 10.0	13 1.9	11 1.6	15 2.2	41 6.0
生活芸術学科	434 100.0	83 19.1	168 38.7	68 15.7	30 6.9	29 6.7	12 2.8	7 1.6	10 2.3	27 6.2

(4) 学科選択理由

「職業に役立てたい」ために学科を選択した者が最も多く、続いて「その分野が好きだった」「免許取得ができる」「家庭生活に役立つ」の順である(表11)

「職業に役立てたい」や「免許取得ができる」という職業に関連した理由から学科選択する者が50%を超えている。これは入学時に有職者が多かったことからもうなづける。

学科別にみると児童学科、食物学科で職業に関連した理由が多い。これに対し生活芸術学科では職業に関連した理由とその分野が好きに二分される。

表 11. 学科選択理由

【専攻学科別】	合 計	好 き	免許取得	家庭生活に役立つ	職業に役立つ	特に理由はない	専門を深める	その他	無 答
【合 計】	1852 100.0	465 25.1	442 23.9	244 13.2	576 31.1	28 1.5	61 3.3	22 1.2	14 0.8
児童学科	731 100.0	159 21.8	208 28.5	116 15.9	220 30.1	5 0.7	14 1.9	6 0.8	3 0.4
食物学科	687 100.0	158 23.0	131 19.1	87 12.7	253 36.8	13 1.9	33 4.8	6 0.9	6 0.9
生活芸術学科	434 100.0	148 34.1	103 23.7	41 9.4	103 23.7	10 2.3	14 3.2	10 2.3	5 1.2

また入学形態によっても違いがみられ、一年次入学では「その分野が好き」編入学は「職業に役立てたい」、学士入学は「免許取得」の占める割合が多い。

以上、入学動機をみてきたが、回答者を3つのグループに分類できると思われる。

まず第一のグループは「大学卒業の資格」を目的に入学した者で、20代前半までに入学し、専攻学科は「その分野が好き」あるいは「家庭生活に役立つ」から選んでいる。

第二のグループは、「専門的知識・技術」や「職業上の資格」のために入学した者で、入学時に職業を持ち、短期大学や大学卒の高学歴者で職業に関連した理由から専攻学科を選んでいる。社会人になって明確な動機のもとに入学したと考えられ、当然その学習意欲も高いことが推測される。

第三のグループは「生きがい」や「生涯学習」を目的として入学した者で、31歳以上の中高齢者に多く、このタイプは近年増加傾向を示している。中には「専門的知識・技術」をあげる者もかなりある。

なお職業との関連からみると、第二のグループでは継続型が多く、第三と第一グループは職業経験のない者や卒業後就業した者に多い。

以上のように大学通信教育課程は、年齢・学歴・職業・生活経験等の異なる多様な人々がそれぞれの学習動機をもって入学しており、近年通信教育課程に対する期待も多様化してきている。

四、在学中の学習について

まずはじめに在学中どの程度の満足感を持ったのかを学生生活の各面について回答を求め次に学習継続上の問題点をたずね、そこから出された問題状況を捉え、改善の方向を探っていく。

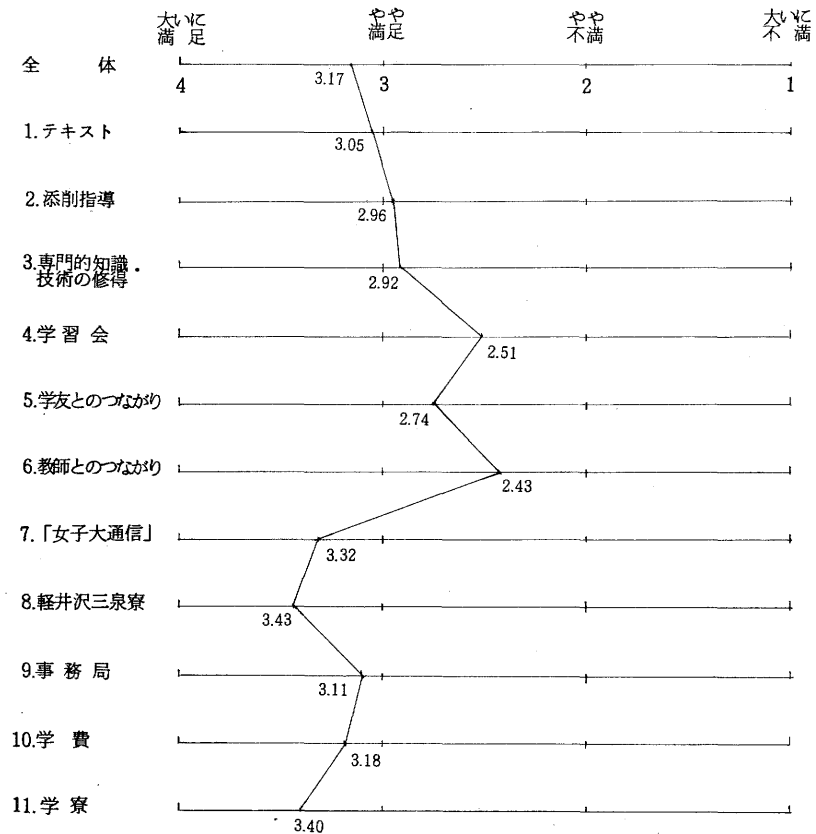
(1) 満足度

まず在学中の全体の満足度をたずねた上で、①テキスト（指導書を含む）②添削指導、③専門的知識・技術の修得 ④学習会 ⑤学友とのつながり（学習友の会、クラス会など）⑥教師とのつながり、⑦「女子大通信」 ⑧総合面接（軽井沢三泉寮） ⑨事務局との関係 ⑩学費 ⑪学寮（スクーリング期間利

用した者のみ)の11項目に分けて、それぞれの満足度をみていくこととする。
(図6)

全体的にみれば「やや満足」といえる。最も満足度の高いのは、「軽井沢三泉寮」であり、この他「女子大通信」が好評である。なお、「学寮」は高い満足度を示すが、回生による差が大きく、古い回生ほど満足度が高い。

図6. 満足度



これに対して、満足度が最も低いのは、「教師とのつながり」であり、「学習会」、「学友とのつながり」と続く。

職業との関連でみると、満足度が高いのは入学時から職業をずっと継続していたが、現在は定年を迎えている者（「継続・定年」）であり、次いで入学時から職業をずっと継続し、現在も職業をもっている者（「継続・現職あり」）である。これらのグループでは、「専門的知識・技術の修得」、「添削指導」といった学習面、さらには「教師とのつながり」、「学友とのつながり」等の学生生活各面の満足度も高い。このように入学時から職業を継続していた者たちの満

足度が高いといえる。「継続型」では、明確な動機から入学する者が多いことから学習意欲は高いと推察されこのことが、満足度に関連すると考えられる。

これに対し満足度が最も低いのは、入学時は職業をもっていたが、在学中に仕事をやめ、卒業後は就業していない者(「中断・卒業後就業せず」)である。次いで満足度が低いのは、入学時から現在まで職業に就いたことのない者(「職業経験なし」)であり、いずれも卒業後職業を持っていない者である。

回生との関連でみると回生が新しくなるほど満足度は低下する傾向にある。「教師とのつながり」「添削指導」「学寮」「事務局」「テキスト」「専門的知識・技術の修得」等の項目で顕著である。

この他、在学中の特に満足した点として、主なものは、以下のとおりである。

- 「スクーリングに関すること」が数多く挙げられている。
- 「夏の暑い中、先生が先頭に立って熱心に指導して下さった実験・実習——その感動が今も忘れられない」(32回食物)
- 「先生方が、何も分からない私に丁寧によく教えてくださった」(9回食物)といった、常日頃の個人学習に比べ、講義や実験・実習などを通して教師から直接指導を受けられた喜びの気持ちを表現したものが多い。
- また「夜間、数学の補習講座が開講された」
- 「住居史はゼミ形式であったので、先生や友達と十分意見の交換ができた」
- また「先生方の知識の豊富さと共に人間的豊かさに触れることができ幸せでした」といった人間的ふれあいの喜びもかなりみられた。

さらに在学中に満足した点としてスクーリングに次いで挙げられているのが「学友」に関することである。通信教育課程の場合、学友とのつながりは、スクーリングをきっかけとすることが多く、「年齢差を超えて、同じ目的に向かって勉強する姿を見て心打たれた。」(11回食物)のように、年齢、生活経験、職業、地域などが異なる様々な友との出会いから、視野も広がり、お互いに影響し合うことが大きかったと思われる。また、「スクーリングを通して得た友人からの情報提供によって、学習方法、資料の収集等で助けられ、励まされた」(32回生活芸術)のように、学友を通しての相互学習が個人学習の孤独さを取り払い、学習面によい効果をもたらしていることがわかる。

しかし、「学友とのつながり」の満足度は、全体としては低く以下のような意見も見のがせない。

- 「みな、自分の勉強さえよければ、今更友人関係などという人がとても多く、やりにくかった。」(29回児童)
- 「消極的な者には、スクーリングなどで他の人達との交わりがスムーズにできない」(29回生活芸術)
- 「自分から進んで友を捜さないとダメになってしまいそう」(32回食物)
- 「友人関係が卒業できるかに大きく影響していると思う」(30回生活芸術)

このようにスクーリングでは、教師から直接指導を受け、さらに教師や友人との人間関係もでき、平素の個人学習では得られない学習効果を学生に与えていることがわかる。

(2) 学習継続上の問題点・改善点

表 12. 学習継続困難有無

【回生】	合計	ある	ない	無答
【合計】	1852 100.0	1269 68.5	579 31.3	4 0.2
1～10回生	478 100.0	277 57.9	200 41.8	1 0.2
11～20回生	443 100.0	289 65.2	152 34.3	2 0.5
21～30回生	522 100.0	388 74.3	134 25.7	- -
31～36回生	409 100.0	315 77.0	93 22.7	1 0.2

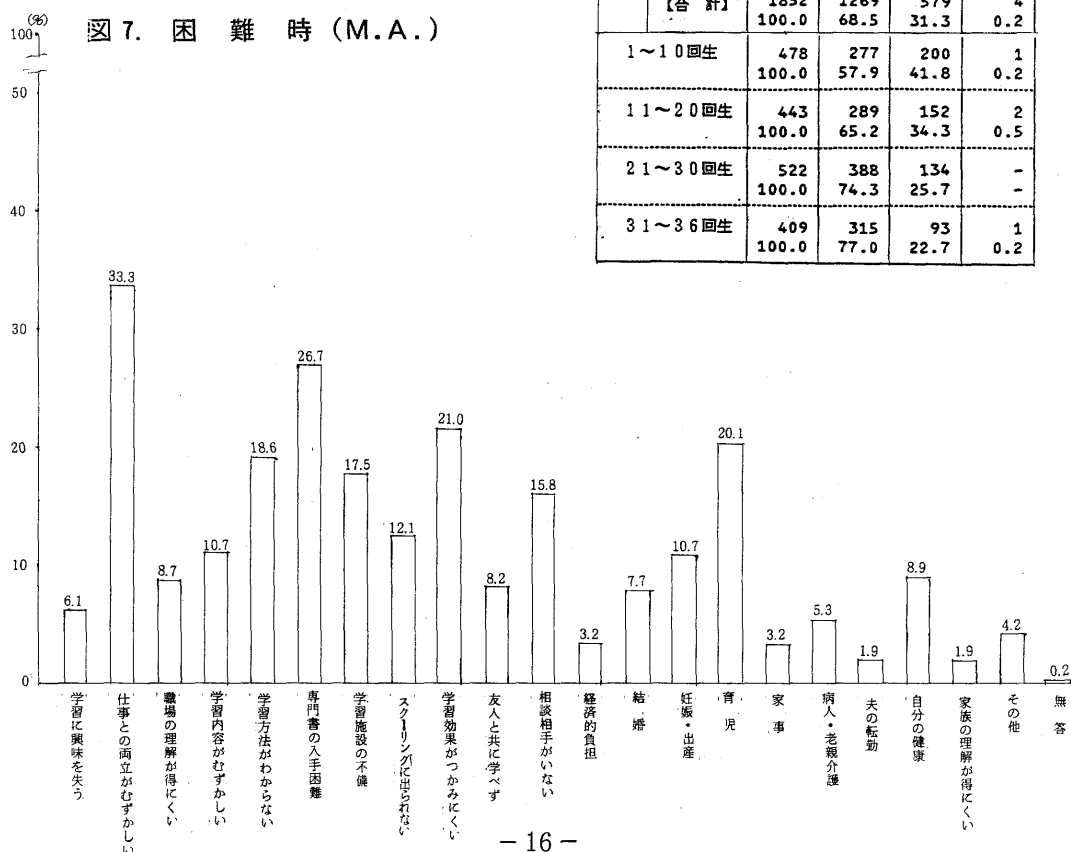


表12に示すように、実に約7割の者が学習継続に「困難を感じたことがある」と答えている。学習継続に困難を感じる者は近年増加傾向にあり、最近の回生では約8割に達する。

学習継続を困難にする具体的内容を見よう。図7に示すように「仕事との両立がむづかしい」が最も多く、次いで「専門書や資料の入手が困難である」「学習効果がかみにくい」「育児」「学習方法がわからない」「学習施設の不備」等である。

そこで、このような学習継続上の問題点を4つの視点 ①職業との両立 ②家庭との両立 ③学習方法の問題 ④施設、設備の不備からみていこう。

① 職業との両立

表 13. 入学時の職種とスクーリング時の職場の扱い

スクーリング時の職場で	合計	大・短 教員	中・高 教員	幼・小 教員	教員・ その他	栄養士・ 看護婦・ 保母	学校職員	公務員	民間企業 勤務	その他 専門職	自営業（ 手伝い） ・塾	その他	無答
【合計】	1394 100.0	137 9.8	355 25.5	216 15.5	126 9.0	94 6.7	72 5.2	79 5.7	114 8.2	41 2.9	48 3.4	14 1.0	98 7.0
有給	1110 100.0	130 11.7	337 30.4	203 18.3	117 10.5	64 5.8	62 5.6	64 5.8	48 4.3	15 1.4	12 1.1	6 0.5	52 4.7
有給と 無給半々	40 100.0	2 5.0	8 20.0	1 2.5	2 5.0	2 5.0	1 2.5	7 17.5	6 15.0	3 7.5	2 5.0	-	6 15.0
無給	87 100.0	1 1.1	5 5.7	5 5.7	3 3.4	12 13.8	3 3.4	3 3.4	20 23.0	6 6.9	8 9.2	4 4.6	17 19.5
休職	19 100.0	1 5.3	-	1 5.3	-	2 10.5	2 10.5	1 5.3	7 36.8	1 5.3	1 5.3	-	3 15.8
退職	58 100.0	-	4 6.9	3 5.2	1 1.7	7 12.1	2 3.4	4 6.9	27 46.6	1 1.7	-	-	9 15.5
その他	38 100.0	-	1 2.6	1 2.6	-	3 7.9	-	-	1 2.6	7 18.4	20 52.6	3 7.9	2 5.3

学習を続ける上での最大の困難が職業との両立である。

学習と職業の両立の困難度は職種によって異なる。表13に示すように例えば「教員」の場合、スクーリングは夏休みと重なり、しかも「有給」扱いで出席できるため両立しやすい職業といえる。これに対し「無給」や「休職」さらには「退職」しなければ学業を続けられない職業もある。ここで在学中に職業をやめた者の入学時の職種をみると、「民間企業勤務」が最も多くなっている。ところで、近年入学時の職種として「民間企業勤務」が増加し、学習継続上の困難を感じる者が増えていることから、職種のいかんにかかわらず、学習との両立が可能になるような対応、例えばスクーリングの開設機会（夜間、平日、地方）、開設数（夏期だけでなく季節ごとに）の拡大が早急に求められている。

さらにスクーリングを短い期間に分割して出席できるようになれば、学習者はより一層学習しやすくなるだろう。

② 家庭との両立

女性が学習を続けていく時、結婚、妊娠、出産、育児、自分の健康、病人、老親介護、夫の転勤といった問題がある。このことは「職業継続型」の者よりも、「職業経験なし」の者に多くみられる。これと関連してスクーリング出席中の子ども（小学校低学年以下）の世話についてみよう。

近年「女子大のナースリー」や「保育所」を利用して学習する者が増えてきているが、子どもを托す相手は「自分の父母」が最も多く、およそ二人に一人の割合である。続いて「夫」「夫の父母」である。「職業経験なし」の者の場合、その他に「自分のきょうだい」や「地域の友人・知人」の比率が高く、自分の友人関係を活用してスクーリングに出席している。

(3) 学習方法の問題

ここでは、学習方法についての問題点、改善点を、学習相談体制・学習内容の助言、指導体制、単位認定、専任教師、テキスト等の面から検討する。

① 学習相談体制の整備

入学者は広い年齢層に渡っているが、特に19歳未満の若い層に、「学習方法がわからない」「相談相手がいない」「友人と共に学べない」等の不満が目立っていた。高校までの学校で行なう学習方法とは異なる通信教育の学習にとまどいがあると思われる。

「入学後送られてきたテキストを見てびっくりして、どうしていいのかわからず、手をつけられなかった。始めに学習の進め方、各学科ごとの学習方法について指導があったら、気分的に楽になり、多くの人が学習を続けられると思う。」といった意見も多くみられた。こういった問題に対する改善策として、個人学習を援助する相談体制の整備が求められ、特に入学時の学習方法のガイダンス、助言、指導が期待されている。

② 学習内容についての助言、指導体制の整備

「学習内容がむづかしい」という者も多く、「自分の基礎学力不足のため、数学、英語、化学の学習についていくのが大変だった」「スクーリングで能力別にしてもらった授業は理解しやすかった」といった感想がみられた。このよ

うな基礎学力、学習能力の異なるさまざまな学生に対し、チューター制度の導入などが求められている。

③ 単位認定

近年、短大・大学等の高等教育機関を卒業して入学する者が増加しているが、そこで修得した単位の認定に不満を持つ者が多い。単位認定は在学年数に関連するため切実である。他大学通信課程や放送大学で修得した単位の認定を望む声もあり、他大学との単位互換、連携が望まれている。それが実現されれば「実験・実習等はスクーリングだけでは不十分だ」という不満にも対応でき、学習効果の点からまた、学習機会の拡がりの上でも大きな期待をもつことができる。

この他、通信教育課程から通学課程への編入の便宜を望む者も多くみられた。

④ 「専任教員」の要望

現在通信教育課程の専任教員はいないがそのことへの不満が大きい。前述の満足度の中でも「教師とのつながり」を望む者が多くみられた。スクーリングでは単位取得におわれ、受講生も多く、教師とのつながりをもつことがむづかしい状況であり、またスクーリング以外にも教師からの直接指導を求める声が聞かれたことから、このことはうなづけよう。さらに学習はテキスト以外から、例えば教師とのコミュニケーションを通して学ぶものも多く、この意味からも専任教員を望む声大きい。

⑤ テキスト

通信教育はテキストの理解から学習が始まるが、このテキストに対する要望は多い。まず、テキストの「テープ・ビデオ化」である。テープ・ビデオは日々の生活に浸透しており、学習内容によっては（例えば語学・実験）視・聴覚教材の方がより学習効果が上がると考えられ、また反復学習が可能であるため、それらの積極的導入が望まれている。

次いで要望が多いのは、「わかりやすいテキストを」である。「テキストが簡単すぎる、もう少し詳しく、ていねいに書いてほしい」「テキストが古い版で読みづらく、印刷も表現も文字も理解しにくい」といった意見にみられるように、個人学習のテキストとして「わかりやすさ」は重要な課題である。

この他「内容改訂を行ない、新しい情報を取り入れて欲しい」「担当教員以

外の先生の著書もテキストにする」といった要望、「参考文献についても、専門的なものと同時に、わかりやすく初歩的なものも教えてほしい」など情報の提供が求められている。

(4) 学習施設・設備の不備

学習継続上の問題点として、第2位にランクされていたのが「専門書や資料の入手が困難である。通信教育の学習では、文献を利用することが多いが、図書館の開館時間、利用者制限、専門書の不足があげられていた。

最近では、図書館間相互貸借制度ができ、学習者は資料を求め、あちこちの図書館を訪ね歩く必要は少なくなったが、この制度が地域の図書館まで広がり、必要な図書、資料、ビデオ、テープを地元で入手できたら学習を進める上で大きな効果をもたらすであろう。

また、教室、実験室等学習施設、設備の整備を求める者が半数以上もいる。具体的には「1クラスの学生数が多く、席とりに苦労した」「ピアノ・ミシン等の実習設備の不足」「真夏の学習だから教室、実験室等を涼しく快適にしたい」といった要望である。なお最近では保育施設を利用して学習する者が増加しており、保育施設、学童保育施設の充実も求められている。

五、卒業後の生活

様々な困難を乗り越えて本学の通信教育課程を卒業した者たちにとって、卒業したことがその後の生活にどのような影響、効果をもたらしているのだろうか。

卒業後の1.職業生活、2.家庭生活、3.社会活動、4.学習、の各面から検討を試みる。

1. 職業生活

通信教育課程は本来、職業生活を続けながら学習できることが、その主要な特色の一つである。事実、本学においても入学時の有職率は約75%と高い比率を占めていた。

そこで、(1)卒業生たちの現在の職業について、次に本学の通信では入学時の職業に教員が多いことをふまえて、(2)在学中の教員免許の取得状況について、

さらに(3)卒業したことが職業上にどのような効果をもたらしたのか等について検討する。

表 14. 現職の有無

(1) 現在の職業

【回生】	合計	就いている	過去に就業経験有り	就いたことなし	無答
【合計】	1852 100.0	1205 65.1	442 23.9	205 11.1	-
1～10回生	478 100.0	244 51.0	214 44.8	20 4.2	-
11～20回生	443 100.0	313 70.7	96 21.7	34 7.7	-
21～30回生	522 100.0	368 70.5	89 17.0	65 12.5	-
31～36回生	409 100.0	280 68.5	43 10.5	86 21.0	-

現在職業に就いている者は、全体の65%を占めている。当然のことながら卒業年次の古い1～10回生では、定年などにより現職のある者は少ない。また近年、入学時から現在まで全く職業に就いたことのない者が増加傾向にあり、31～36回生では20%をこえている点が注目される(表14)

職業継続についてみると、「継続・現職あり」の者が40.9%で最も多く、次いで「中断・現職あり」の者が約19.7%、以下「中断・現職なし」(14.4%)「継続

表 15. 現職の種類

【職業継続パターンⅡ】	合計	大・短 教員	中・高 教員	幼・小 教員	教員・ その他	栄養士・ 看護婦・ 保育	学校職員	公務員	民間企業 勤務	その他 専門職	自営業(手 伝い)・ 塾	その他	無答
合計	1204 100.0	133 11.0	273 22.7	148 12.3	100 8.3	88 7.3	42 3.5	58 4.8	106 8.8	118 9.8	104 8.6	15 1.2	19 1.6
継続・現職あり	751 100.0	114 15.2	214 28.5	101 13.4	77 10.3	56 7.5	29 3.9	46 6.1	29 3.9	42 5.6	36 4.8	2 0.3	5 0.7
中断・現職あり	363 100.0	18 5.0	53 14.6	43 11.8	22 6.1	25 6.9	10 2.8	10 2.8	60 16.5	58 16.0	47 12.9	7 1.9	10 2.8
卒業後就業・継続	90 100.0	1 1.1	6 6.7	4 4.4	1 1.1	7 7.8	3 3.3	2 2.2	17 18.9	18 20.0	21 23.3	6 6.7	4 4.4
継続・定年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中断・現職なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中断・卒業後就業せず	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
職業経験なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【回生】													
1～10回生	244 100.0	26 10.7	84 34.4	31 12.7	12 4.9	8 3.3	1 0.4	9 3.7	9 3.7	31 12.7	27 11.1	4 1.6	2 0.8
11～20回生	313 100.0	37 11.8	84 26.8	39 12.5	18 5.8	19 6.1	12 3.8	19 6.1	26 8.3	21 6.7	29 9.3	2 0.6	7 2.2
21～30回生	368 100.0	33 9.0	76 20.7	46 12.5	39 10.6	32 8.7	11 3.0	20 5.4	34 9.2	40 10.9	25 6.8	6 1.6	6 1.6
31～36回生	280 100.0	37 13.2	29 10.4	32 11.4	31 11.1	29 10.4	18 6.4	10 3.6	37 13.2	26 9.3	24 8.6	3 1.1	4 1.4

・定年(9.0%)の順である。すでに定年を迎えた者も含めると、約半数が継続型で占められるが、様々な理由により職業を中断した者もほぼ4割に達している。

現職の職種は、表15に示すように、「中・高教員」が最も多く(22.7%)、「幼・小教員」「大学・短大教員」等、教員関係が半数以上を占めている。しかし、近年は前述の入学者層の変化、教員採用事情の影響等により中・高教員が減少し、反面「民間企業」等の教員以外の職種の増加がみられる。

表 16. 現職の勤務形態

【職業継続パターンI】	合計	フルタイム	パートタイム	在宅勤務	派遣労働	非常勤・臨時	アルバイト	自由業	自営業(塾を含む)	家内労働	内職	その他	無答
合計	1204 100.0	822 68.3	82 6.8	4 0.3	4 0.3	106 8.8	47 3.9	9 0.7	81 6.7	32 2.7	5 0.4	3 0.2	9 0.7
継続・現職あり	751 100.0	642 85.5	12 1.6	- -	- -	33 4.4	13 1.7	4 0.5	24 3.2	15 2.0	- -	1 0.1	7 0.9
中断・現職あり	363 100.0	159 43.8	51 14.0	3 0.8	3 0.8	60 16.5	24 6.6	4 1.1	39 10.7	13 3.6	3 0.8	2 0.6	2 0.6
卒業後就業・継続	90 100.0	21 23.3	19 21.1	1 1.1	1 1.1	13 14.4	10 11.1	1 1.1	18 20.0	4 4.4	2 2.2	- -	- -

職種と職業継続パターンとの関連をみると、「継続型」に教員が多く、「中断型」や「卒業後就業型」に民間企業、その他の専門職(ケースワーカー、インテリアコーディネーター等)、塾経営等が多くなっている。(表15)

次にその勤務形態をみると、全体の約70%がフルタイムである。(表16) しかし、職業継続パターンによる差が大きく、「継続型」では85%までがフルタイムで占められているのに対し、「中断型」ではその $\frac{1}{2}$ 、「卒業後就業型」では $\frac{1}{4}$ に減少し、その分パートタイムや非常勤、塾経営などが増加している。

このように現在職業をもつ者が多いものの、職種、勤務形態などの面では時代とともに徐々に変化している。

(2) 教員免許の取得について

前述のように減少傾向にあるとはいえ、現職をもつ者の約半数は教員である。そこで通信教育課程在学中の教員免許取得状況についてみておきたい。

なお、本学の通信教育課程では、次のような教員免許が取得できる(昭和63年3月現在)

児童学科 (昭和53年3月まで)	}	幼稚園教諭一級普通免許状
		中学校教諭一級普通免許状(保健・家庭)
		高等学校教諭二級 " (")

(昭和53年4月以降) { 幼稚園教諭一級普通免許状
小学校教諭一級普通免許状

食物学科 { 中学校教諭一級普通免許状 (保健・家庭)
生活芸術学科 { 高等学校教諭二級普通免許状 (")
幼稚園教諭二級普通免許状

在学中に教員免許を取得した者は、全体では55%と半数以上を占めている。

(表17) しかし卒業年次が新しくなるほど取得者は減少傾向にあり、31~36回生では33%にとどまっている。

表 17. 教員免許取得

【回 生】	合 計	し た	し なか っ た	無 答
【合 計】	1852 100.0	1013 54.7	831 44.9	8 0.4
1~10回生	478 100.0	349 73.0	127 26.6	2 0.4
11~20回生	443 100.0	280 63.2	161 36.3	2 0.5
21~30回生	522 100.0	249 47.7	271 51.9	2 0.4
31~36回生	409 100.0	135 33.0	272 66.5	2 0.5

表 18. 教員免許と職業

合 計	役立っ てる	直接的に 役立 ず	そ の 他	無 答
1013 100.0	673 66.4	323 31.9	12 1.2	5 0.5
349 100.0	262 75.1	83 23.8	1 0.3	3 0.9
280 100.0	185 66.1	88 31.4	5 1.8	2 0.7
249 100.0	160 64.3	86 34.5	3 1.2	-
135 100.0	66 48.9	66 48.9	3 2.2	-

表 19. 教員免許を取得しなかった理由

合 計	最初から 取るつも りはなか った	今、取っ ておけな かったと 思う	取るつも りだったが、 取れな かった	そ の 他	無 答
831 100.0	301 36.2	55 6.6	434 52.2	37 4.5	4 0.5
127 100.0	64 50.4	8 6.3	50 39.4	5 3.9	-
161 100.0	64 39.8	13 8.1	78 48.4	5 3.1	1 0.6
271 100.0	91 33.6	26 9.6	147 54.2	6 2.2	1 0.4
272 100.0	82 30.1	8 2.9	159 58.5	21 7.7	2 0.7

表 20. 取得するつもりであったが、できなかった理由

合 計	卒業優先	教育実習 に参加で きない	「音楽実 技」の 単位	年 齢	時間的 余裕が ない	必要が なくな った	大学の 方針変更	そ の 他	無 答	
【合 計】	434 100.0	112 25.8	78 18.0	51 11.8	57 13.1	39 9.0	43 9.9	9 2.1	36 8.3	9 2.1

では、取得された教員免許は実際に職業に生かされ、役立っているのだろうか。この点でも卒業年次による差が大きく、教員免許取得者の少ない卒業年次の新しい回生ほど「役立っている」者の比率は減少し、31~36回生では半数にもみたく(表18)、教員への道が徐々に厳しくなっている様子が見えてくる。逆にこのことが教員免許取得者の減少にもつながっているものと思われる。

そこで、教員免許を取得しなかった者にその理由をたずねてみると、「最初 は取得するつもりであったが、取得しなかった」者が約50%で最も多く、しかも卒業年次が新しくなるほど増加傾向にある。(表19) さらにその理由をみると、表20に示す通り、「卒業を優先させた」「教育実習に参加できない」「年

齢を考へて」などが多くあげられている。通信教育課程の場合、入学年齢が概して高いうえに、在学期間も平均的に5～6年かかっており、当然のことながら卒業年齢も高くなる。このことは、それだけでなく厳しさを増している教員採用への道を一層困難にし、教員免許取得を断念させる大きな要因となっているように思われる。加えて、「教育実習」が学生の重い負担になっており、とりわけ、すでに教員として勤務している場合、勤務校での実習が認められないことへの不満は大きい。

(3) 通信教育課程卒業の効果

約9割の者が卒業後就業しているが、通信教育課程を卒業したことが職業生活にどのような効果をもたらしているのだろうか。

そこで、通信教育課程卒業が仕事上や就職・転職に役立ったかどうかをたずねてみると、約70%の者が「役に立った」と答えている。(表21)しかし、その比率は近年減少傾向にある。

表 21. 職業生活への通信卒業の効果

【回 生】	合 計	役立った	役立たない	無 答
【合 計】	1720 100.0	1201 69.8	398 23.1	121 7.0
1～10回生	465 100.0	353 75.9	82 17.6	30 6.5
11～20回生	419 100.0	303 72.3	92 22.0	24 5.7
21～30回生	485 100.0	324 66.8	125 25.8	36 7.4
31～36回生	351 100.0	221 63.0	99 28.2	31 8.8

表 22. 役立った点

(MA)

合 計	職 種	地位・待遇	勤務形態	その他	無 答
1201 100.0	317 26.4	328 27.3	20 1.7	515 42.9	41 3.4
353 100.0	89 25.2	135 38.2	11 3.1	110 31.2	12 3.4
303 100.0	90 29.7	97 32.0	5 1.7	109 36.0	9 3.0
324 100.0	94 29.0	61 18.8	2 0.6	165 50.9	9 2.8
221 100.0	44 19.9	35 15.8	2 0.9	131 59.3	11 5.0

では、どのような点で役立ったのかその内容をたずねてみると、「地位・待遇」(例えば、教員の場合、助教諭から教諭になったり、二級免許から一級免許になったなど)や「職種」(新しい仕事につけた、養護教諭から家庭科の教諭になったなど)の面で役立ったと答える者が多い。(表22)しかし、近年の傾向としては、「地位・待遇」や「職種」の面で直接役立つよりは、むしろ仕事の内容に間接的に役立った者(表では「その他」に含まれる)が増加している。また職業継続パターンとの関連でみると、当然のことながら「継続型」に「地位・待遇」に役立ったとする者が多く、「中断型」や「卒業後就業型」に

「職種」をあげる者が多くなっている。

以上のように、職業生活への影響という面では、卒業年次による差がかなり大きいことがわかる、卒業年次の古い回生の場合、入学者に中・高や幼小の教員が多いこともあって、通信教育課程を卒業することが、そのまま地位・待遇の改善、あるいは就職等につながっている。しかし、卒業年次の新しい回生では入学者層の変化もあり、卒業が直接的には職業に反映されにくい状況になってきているといえよう。

表 23. 就業希望

【回 生】	合 計	持たいたい と思う	思わない	無 答
【合 計】	647 100.0	226 34.9	359 55.5	62 9.6
1～10回生	234 100.0	35 15.0	169 72.2	30 12.8
11～20回生	130 100.0	24 18.5	87 66.9	19 14.6
21～30回生	154 100.0	75 48.7	72 46.8	7 4.5
31～36回生	129 100.0	92 71.3	31 24.0	6 4.7

なお、現在職業に就いていない者に就業希望の有無を問うと、卒業年次の新しい回生ほど希望する者が多く、31～36回生ではその7割までが就業を希望している。(表23)このことは、近年、本学を卒業したことが直接的に職業に反映されにくい状況にあることとも考え合わせて、通信教育課程の卒業生に対するより積極的な就職対策の必要性を感じさせる。希望職種としては、カウンセラーや教育相談員などの専門性の高い職種が多く、勤務形態としては非常勤やパートタイムを希望する者が多い。

2. 家庭生活

次に通信教育課程を卒業したことが、卒業生自身のその後の生き方、人生観、さらには家庭生活にどのような影響を及ぼしているのか、あるいは役立っているのであろうか。卒業生たちの意見・感想を通して検討してみよう。

まず、自分の生き方、人生観への影響という面では、「困難に打ちむかって生きる自信が得られた」、「妻、母、教師として、通信の学生としてやりとげたことが人生の生きる力となっている」、「何事も努力すれば成し遂げられるとい

う自信がついた」などのように、「自分に自信がついた」ことをあげる者が最も多い（29.6％）。次いで「学ぶことの厳しさとともに楽しさ、知る喜びを味わえた。今後とも常に学ぶ姿勢をもちつづけていきたい」「自分が求めて学ぶ楽しさは何物にもかえがたく、生涯学習が学問の本来の姿ではないかと実感した」「通信での学習は、自分の生涯学習の足がかりとなり、基礎となっている」などのように「学ぶ喜びを知った」ことをあげる者が多く（13.8％）、以下「視野が拡大した」、「職業生活に役立った」などが多くあげられている。（表

24) 表 24. 生き方・人生観への「通信」の影響

【回 生】	合 計	自分に 自信が ついた	視野の 拡大	学ぶ喜び	職業生活 で自信を 得た	社会参加	女子大の 教育方針	師との 出会い	友人・ 先輩との 出会い	その他	無 答
【合 計】	1852 100.0	548 29.6	215 11.6	255 13.8	193 10.4	23 1.2	167 9.0	36 1.9	79 4.3	23 1.2	313 16.9
1～10回生	478 100.0	108 22.6	46 9.6	66 13.8	75 15.7	7 1.5	62 13.0	11 2.3	15 3.1	8 1.7	80 16.7
11～20回生	443 100.0	130 29.3	41 9.3	53 12.0	55 12.4	5 1.1	54 12.2	7 1.6	17 3.8	4 0.9	77 17.4
21～30回生	522 100.0	150 28.7	76 14.6	58 11.1	42 8.0	7 1.3	34 6.5	7 1.3	31 5.9	8 1.5	109 20.9
31～36回生	409 100.0	160 39.1	52 12.7	78 19.1	21 5.1	4 1.0	17 4.2	11 2.7	16 3.9	3 0.7	47 11.5

特に、31～36回の卒業年次の新しい回生で「自分に自信がついた」、「学ぶ喜び」をあげる者が多く、近年、卒業が直接職業に有利に反映しにくい状況にあるが、本学での学習を通して、その後の生き方に自信をつけ、生涯学習の足がかりを得た者が少なくないことがうかがえる。

また、本学の場合、家政学部の通信教育課程でもあり、家庭生活との関連も深く、家庭生活に役立てたいからと学科を選択した者も1割以上を占めていた。では家庭生活の面では具体的にどのように役立っているのだろうか。

表 25. 家庭生活への「通信」の影響

【専攻学科別】	合 計	子育て・ 家庭教育	人間関係	食生活・ 健康	家政管理	経済的 自立	全体的に 役立つ	その他	無 答
【合 計】	1852 100.0	366 19.8	149 8.0	157 8.5	149 8.0	7 0.4	259 14.0	10 0.5	755 40.8
児童学科	731 100.0	221 30.2	65 8.9	16 2.2	48 6.6	3 0.4	86 11.8	4 0.5	288 39.4
食物学科	687 100.0	84 12.2	48 7.0	128 18.6	51 7.4	1 0.1	85 12.4	4 0.6	286 41.6
生活芸術学科	434 100.0	61 14.1	36 8.3	13 3.0	50 11.5	3 0.7	88 20.3	2 0.5	181 41.7

全体としては、「育児学等を学んだことにより、ゆとりのある子育てができた」「子どもの教育方針について自分なりの考え方をもてるようになった」「母親の学び続ける姿が子どもの教育に良い影響を与えた」「広い視野から子どもに接することができるようになった」等、「子育て・家庭教育」に対する有形無形の効果をあげる者が最も多い。(19.8%) 次いで、「家庭生活全体に合理性を生かすことができた」「家庭生活に対し科学的な見方ができるようになった」「生活の質を考えるようになった」「家庭や地域社会の生活を大事にするようになった」など家庭生活をそれまでとは違った視点で見つめ、「家庭生活全体に役立った」(14.0%) と考えている者たちも多い。以下、「食生活・健康」、「家政管理」「人間関係」等があげられている(表25)。

なお学科の性格を反映して、児童学科に「子育て、家庭教育」に役立ったと答える者が多く、食物学科に、「食生活・健康」、生活芸術学科では「全体的に役立った」をあげる者が多くみられる。

こうした家庭生活における効果・影響と同時に、注目すべき点として、通信教育課程での学習を通して、従来の妻として母親としての自分から、一人の人間としての自分を見つめ直すようになった者たちがみられることである。

「一人の人間として、子どもたちへ経験を語り、学ぶことの大切さについて話し合うようになった」「夫にも子どもに対しても、“自分はこう思う”とはっきり言えるようになった」「夫との間に、夫婦としての関係だけでなく、人と人との関係がもてるようになった」「〇〇さんの奥さん、お母さんから、一人の女としてもっと精神的に自立しなければと考えるようになった」など、人間としての成長がうかがわれる。

以上のように、通信教育課程の卒業は・卒業生一人一人の精神面での強い支えとなっており、生涯学習への出発点ともなっている。同時に、家庭生活の面でも、本学で学び得たものが有形無形に反映され、さらにその中で、自分自身をみつめなおし、自己を確立していった者たちも少なくない。

3. 社会活動

近年、女性の生活も家庭か職業かの二者択一ではなく、家庭も職業も、さらには社会活動もという方向が志向されている。

そこで、次に、卒業後の社会活動についてみてみよう。

卒業後の、グループや団体に所属した社会活動への参加状況をみると、全体としては「現在参加している者」が約3割、「参加経験のある者」が1割である。

(表26)

表 26. 社会活動への参加状況

【職業継続パターンⅡ】	合計	現在参加	過去から参加継続	過去に参加経験あり	参加経験なし	無答
	合計					
	1838 100.0	434 23.6	97 5.3	166 9.0	1037 56.4	104 5.7
継続・現職あり	751 100.0	162 21.6	29 3.9	29 3.9	477 63.5	54 7.2
中断・現職あり	363 100.0	80 22.0	19 5.2	51 14.0	196 54.0	17 4.7
卒業後就業・継続	90 100.0	32 35.6	4 4.4	12 13.3	39 43.3	3 3.3
継続・定年	166 100.0	44 26.5	10 6.0	10 6.0	88 53.0	14 8.4
中断・現職なし	264 100.0	62 23.5	20 7.6	38 14.4	134 50.8	10 3.8
中断・卒業後就業せず	72 100.0	14 19.4	6 8.3	11 15.3	38 52.8	3 4.2
職業経験なし	132 100.0	40 30.3	9 6.8	15 11.4	65 49.2	3 2.3

“家庭も職業も社会活動も”というなかで、職業をもつ者たちの参加状況に注目すると、前述の「継続・現職あり」のタイプでは、社会活動への参加率が25.5%と最も低いものの、「卒業後就業・継続」タイプでは、逆に参加率が40%と最も高くなっており、職業をもつ者同士でもその違いが大きい。

次に勤務形態別にみると、フルタイムの者では参加率が低いが、それ以外の者の参加率は高く、職業の有無というよりも、むしろ勤務形態の如何が活動への参加に大きく影響している。つまり、フルタイムの者たちは依然として社会活動に参加しにくい状況にあるといえよう。

いずれにしても「卒業後就業・継続タイプ」（これは若い世代に多く、フルタイムは少ない）のように家庭・職業をもちながら社会活動にも参加する者たちは、今後も増加することが予想される。

活動の種類をみると、表27に示すように「福祉に関する有志団体」が最も多く（26.4%）、次いで「趣味サークル」（15.6%）、「生活・環境問題に関する有志団体」（14.3%）「子供に関する有志団体」（10.4%）、「学習サークル」（10.2%）が比較的多く、その他「婦人に関する有志団体」、「宗教団体」、「地域婦人会」「PTA」、「職域団体」等、多様である。

学科により若干違いがみられ、児童学科に「福祉に関する有志団体」が多く、食物学科に「健康・医療に関する有志団体」や「職域団体」、生活芸術科に「地域婦人会」の比率が高い。

表 27. 社会活動の種類 (現在)

【職業経験・ターンズ】	合 計	PTA	自治会	地域婦人 会	福祉に 関する 有志団体	生活・ 環境問題 に関する 有志団体	婦人に 関する 有志団体	子供に 関する 有志団体	健康・ 医療に 関する 有志団体	学芸関係 に関する 有志団体	国際交流 に関する 有志団体	その他の 有志団体	社会教育 (施設) 関連の グループ	職域団体	宗教団体	学習サー クル	趣味サー クル	体育・ スポーツ	同窓会	その他	無 答
合計	531	31	19	34	140	76	47	55	15	19	16	11	11	30	42	54	83	23	10	7	7
	100.0	5.8	3.6	6.4	26.4	14.3	8.9	10.4	2.8	3.6	3.0	2.1	2.1	5.6	7.9	10.2	15.6	4.3	1.9	1.3	1.3
経験・現職あり	191	11	4	14	35	16	16	15	5	15	8	7	5	21	12	24	41	8	4	4	5
	100.0	5.8	2.1	7.3	18.3	8.4	8.4	7.9	2.6	7.9	4.2	3.7	2.6	11.0	6.3	12.6	21.5	4.2	2.1	2.6	-
中絶・現職あり	99	8	2	4	24	16	9	15	4	3	2	-	1	3	8	15	9	5	2	1	3
	100.0	8.1	2.0	4.0	24.2	16.2	9.1	15.2	4.0	3.0	2.0	-	1.0	3.0	8.1	15.2	9.1	5.1	2.0	1.0	3.0
卒業後就業・継続	36	2	3	1	7	7	4	5	2	-	1	-	2	-	4	4	4	3	-	-	1
	100.0	5.6	8.3	2.8	19.4	19.4	11.1	13.9	5.6	-	2.8	-	5.6	-	11.1	11.1	11.1	8.3	-	-	2.8
継続・定年	54	-	5	6	28	5	6	1	1	1	3	2	1	1	2	1	8	3	2	-	1
	100.0	-	9.3	11.1	51.9	9.3	11.1	1.9	1.9	1.9	5.6	3.7	1.9	3.7	3.7	14.8	5.6	3.7	2	-	1.9
中絶・現職なし	82	6	1	8	21	14	7	13	3	-	1	2	-	5	10	4	10	4	1	1	1
	100.0	7.3	1.2	9.8	25.6	17.1	8.5	15.9	3.7	-	1.2	2.4	-	6.1	12.2	4.9	12.2	4.9	1.2	1.2	1.2
中絶・卒業後就業せず	20	2	2	1	5	8	3	2	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	1
	100.0	10.0	10.0	5.0	25.0	40.0	15.0	10.0	-	-	-	-	-	-	10.0	-	20.0	-	-	-	5.0
職業経験なし	49	2	2	-	20	10	2	4	-	-	1	-	2	-	4	6	7	-	1	-	-
	100.0	4.1	4.1	-	40.8	20.4	4.1	8.2	-	-	2.0	-	4.1	-	8.2	12.2	14.3	-	2.0	-	-

(MA)

また、回生との関連では、卒業年次の古い1～10回生に「地域婦人会」や「福祉に関する有志団体」などが多く、卒業年次の新しい31～36回生では「生活・環境問題に関する有志団体」が多くみられ、世代による関心の違いが活動内容にも反映されている。

職業との関連では、「継続・現職あり」のグループに「学会」や「職域団体」、「国際交流に関する有志団体」などが比較的多いが、その反面、「生活・環境問題に関する有志団体」や「福祉に関する有志団体」「子供に関する有志団体」などは少ない。つまり職業を継続している者たちではフルタイムの者が多いこともあり、社会活動としては職業に関連したもの、あるいは自分の専門性を生かせる活動に参加しているように思われる。

以上のように、卒業生たちは通信教育課程での学習や関心に加えて、各自の家庭生活、職業生活等のライフスタイルに合わせた多様な社会活動を展開している。

なお上記の社会活動以外に、個人で各種講座の講師、ボランティア、各種相談員などの社会活動に参加する者も少なくない。(表28)

表 28. 個人参加の社会活動

【専攻学科別】	合 計	講 師	相談員	モニター	ホームステイ	ボランティヤ
【合 計】	101 100.0	49 48.5	9 8.9	9 8.9	10 9.9	24 23.8
児童学科	38 100.0	13 34.2	5 13.2	3 7.9	8 21.1	9 23.7
食物学科	40 100.0	22 55.0	2 5.0	4 10.0	2 5.0	10 25.0
生活芸術学科	23 100.0	14 60.9	2 8.7	2 8.7	-	5 21.7

表 29. 公職経験

【回 生】	合 計	現在 就いている	過去に 就いたこと がある	就いたこ となし	無 答
【合 計】	1852 100.0	60 3.2	31 1.7	1618 87.4	143 7.7
1～10回生	478 100.0	28 5.9	14 2.9	395 82.6	41 8.6
11～20回生	443 100.0	15 3.4	6 1.4	382 86.2	40 9.0
21～30回生	522 100.0	14 2.7	8 1.5	465 89.1	35 6.7
31～36回生	409 100.0	3 0.7	3 0.7	376 91.9	27 6.6

表 30. 公職の種類

(MA)

合 計	民生・ 児童委員	社会教育 教育委員	審議会 委員	保護司	協議会・ 懇話会 委員	運営委員	委員会 委員	地域活動 地域文化 推進委員 (県・市)	地域活動 地域文化 推進委員 (社・財)	その他	無 答
60 100.0	13 21.7	5 8.3	10 16.7	3 5.0	3 5.0	5 8.3	8 13.3	12 20.0	7 11.7	9 15.0	-

なお公職についてみると、現在公職についている者が3.2%、過去に公職経験のある者が1.7%で、卒業年次の古い回生に経験者が多い。(表29)

公職の種類は、表30の通りで、「民生・児童委員」が最も多い。

4. 学習について

通信教育課程における学習を通して学ぶ喜びを知り、生涯学習の出発点に立った卒業生たちのその後の学習についてみてみよう。

卒業後、何らかの系統的・継続的な学習をしている者は、全体の約半数を占める。とりわけ入学年齢が30歳代以上と高くなるほど学習者が多くなっている点が目目される。(表31) ちなみに前述の「学ぶ喜びを知った者」者たちに、卒業後の学習者も多く、生涯学習志向が裏づけられている。

表 31. 卒業後の学習

【入学年齢別】	合計	学習した(している)	していない	無答
【合計】	1852 100.0	853 46.1	947 51.1	52 2.8
19才未満	189 100.0	82 43.4	102 54.0	5 2.6
20～25才	801 100.0	338 42.2	445 55.6	18 2.2
26～30才	377 100.0	182 48.3	184 48.8	11 2.9
31～35才	235 100.0	120 51.1	103 43.8	12 5.1
36～40才	123 100.0	66 53.7	54 43.9	3 2.4
41才以上	69 100.0	39 56.5	30 43.5	-
無答	58 100.0	26 44.8	29 50.0	3 5.2

表 32. 学習形態

(MA)

【職業経歴パターン】	合計	大学への再入学	他通信課程への再入学	大学院進学	専修学校入学	民間の学習機関	公民館等の講座・市民大学	大学の公開講座
【合計】	853 100.0	25 2.9	110 12.9	37 4.3	40 4.7	274 32.1	142 16.6	80 9.4
継続	386 100.0	10 2.6	58 15.0	11 2.8	14 3.6	92 23.8	47 12.2	44 11.4
職業経験あり	313 100.0	10 3.2	42 13.4	20 6.4	16 5.1	105 33.5	60 19.2	22 7.0
卒業後職業継続	55 100.0	3 5.5	5 9.1	4 7.3	6 10.9	27 49.1	13 23.6	3 5.5
卒業後就業せず	34 100.0	-	2 5.9	1 2.9	1 2.9	17 50.0	4 11.8	3 8.8
入学から現在まで職業なし	59 100.0	2 3.4	2 3.4	1 1.7	3 5.1	31 52.5	15 25.4	7 11.9
無答	6 100.0	-	1 16.7	-	-	2 33.3	3 50.0	1 16.7

(1) 学習形態

学習形態をみると、カルチャーセンター等の「民間の学習機関」で学習する者が約3割で最も多く、次いで「公民館等の講座・市民大学」、「他の通信課程への再入学」などが多い。また、少数ながら「大学院進学」や「大学への再入学」を果たした者たちもみられる。(表32)

なお、表32にあげられた学習形態以外にも、「研修」「聴講生」「研究生」「グループ学習」「講習会」「個人教授」「独習」等、実に多様なスタイルで学習が続けられている。

この学習形態を職業との関連でみると、フルタイムで勤務する者の多い「継

「統型」では、その他の者に比べて「他の通信課程への再入学」や「大学の公開講座」はやや多いものの、それ以外は概して少ない。とくに「民間の学習機関」や「公民館等の講座」で学習する者は少なく、時間的な制約による影響が大きいものと推察される。

(2) 学習理由

次に学習理由をみると、「職業に役立つ」をあげる者が最も多く、次いで「資格取得」で、両者を合わせるとほぼ4割を占める。その他に「視野の拡大」「学び続けたい」「専門を深める」「生きがい」などがあげられている。(表33) 全体としては職業志向が強くみられるものの生涯学習として学び続けている者たちも少なくない。

学習形態との関連でみると、「大学への再入学」者に「職業に役立つ」や「資格取得」を学習理由としてあげる者が多く、「通信課程再入学」者および「専修学校入学」者に「資格取得」をあげる者が多い。これに対して、「民間の学習機関」(表34) や「公民館等の講座」、「大学の公開講座」で学ぶ者に「視野の拡大」や「学び続けたい」さらには「生きがい」などをあげる者が多く、前者を職業・資格志向とすれば、後者はむしろ、教養・生涯学習志向の色彩が強い。

表 33. 学習理由 (全体)

	合計	職業に 役立つ	資格取得	学び続け たい	生きがい	語学研修	視野の 拡大	家庭生活 に役立つ	趣味	ボランテ ィア活動	「大卒」 扱されず	専門を 深める	学 位	社会との つながり	その他	無 答
【合 計】	853 100.0	224 26.3	116 13.6	84 9.8	33 3.9	23 2.7	109 12.8	19 2.2	16 1.9	14 1.6	1 0.1	49 5.7	7 0.8	16 1.9	12 1.4	130 15.2

表 34. 学習理由 (民間の学習機関)

	合計	職業に 役立つ	資格取得	学び続け たい	生きがい	語学研修	視野の 拡大	家庭生活 に役立つ	趣味	ボランテ ィア活動	「大卒」 扱されず	専門を 深める	学 位	社会との つながり	その他	無 答
【合 計】	274 100.0	64 23.4	18 6.6	40 14.6	15 5.5	14 5.1	48 17.5	10 3.6	12 4.4	6 2.2	- -	5 1.8	- -	7 2.6	3 1.1	32 11.7

(3) 学習内容

学習形態別に学習内容をみると「大学への再入学」者では、教育・福祉関係

の専攻が多く、「他の通信課程への再入学」者に教職課程に進む者が多くみられる。また、「専門学校入学」者に、服飾関係を選択する者が多く、専門的な技術や資格の取得をめざしている。

次に「民間の学習機関」で学ぶ者たちの学習内容では、「カウンセリング・福祉・教育」に関するものが最も多く、(25.9%) 次いで「趣味」(23.0%) 以下「語学」「教養」「職業に関すること」「家庭・日常生活に関すること」などの順である。(表35) カウンセリングを学ぶ者の中には桜楓会(本学の同窓会)主催のカウンセリング研修会(注2)に参加している者がかなり含まれている。

表 35. 学習内容 (民間の学習機関)

【専攻学科別】	合計	職業に関すること	カウンセリング・福祉・教育	家庭・日常生活	教養	趣味	語学	体育・スポーツ	市民生活	情報処理関係	その他	無答
【合計】	274 100.0	27 9.9	71 25.9	17 6.2	30 10.9	63 23.0	40 14.6	1 0.4	2 0.7	6 2.2	1 0.4	16 5.8
児童学科	128 100.0	16 12.5	43 33.6	3 2.3	14 10.9	23 18.0	19 14.8	1 0.8	-	3 2.3	-	6 4.7
食物学科	82 100.0	5 6.1	17 20.7	9 11.0	7 8.5	21 25.6	14 17.1	-	1 1.2	1 1.2	1 1.2	6 7.3
生活芸術学科	64 100.0	6 9.4	11 17.2	5 7.8	9 14.1	19 29.7	7 10.9	-	1 1.6	2 3.1	-	4 6.3
【回生】												
1～10回生	59 100.0	2 3.4	7 11.9	4 6.8	8 13.6	24 40.7	7 11.9	-	-	2 3.4	1 1.7	4 6.8
11～20回生	64 100.0	7 10.9	8 12.5	5 7.8	7 10.9	21 32.8	10 15.6	-	-	1 1.6	-	5 7.8
21～30回生	92 100.0	11 12.0	31 33.7	7 7.6	9 9.8	14 15.2	14 15.2	-	-	2 2.2	-	4 4.3
31～36回生	59 100.0	7 11.9	25 42.4	1 1.7	6 10.2	4 6.8	9 15.3	1 1.7	2 3.4	1 1.7	-	3 5.1

(注2) カウンセリング研修会への参加者は30代～50代の者が多く、本学卒業生が約4割、学外の者が6割を占める。参加の目的は、「資格取得」と「自分自身のため」をあげる者が多い。基礎コース、研修コース、専修コースを修了した者に「カウンセラー2級」の認定証が与えられる。

しかも、卒業年次の新しい回生ほど「カウンセリング・福祉・教育」を学ぶ者が多くなっている。

また「公民館等の講座・市民大学」で学ぶ者の学習内容は「教養」が最も多く、その他には「趣味」「カウンセリング・福祉・教育」「市民生活」「家庭・日常生活」「語学」などで、教養志向の色彩が強い。

以上、卒業後の学習についてみてきたが、概して、学習する理由が職業・資格のためであるのか、あるいは教養・生涯学習としてであるのかが、学習形態および学習内容を決定する重要なポイントになっている。しかし、その一方で民間の学習機関でカウンセリングを学ぶ者たちにみられるように、自分自身のために学びつつ、チャンスがあれば資格を生かして社会に出たいと考える者たち、つまり従来のようにはっきりと職業・資格志向とも、教養志向ともいえない中間的な存在が増加しているように思われる。

いずれにしても、卒業生の約半数が、通信教育課程卒業により得た自信や学習の喜びをバネにして、さらに次のステップを旨として学習を継続している。各自が自分の意志でそれぞれのライフスタイルにあった学習を選択し、実行しているということは、通信教育課程での学習が生涯学習の出発点になったということ、裏づけるものであろう。

六、生涯学習への期待

生涯学習の一環として、本学の通信教育に期待することとしては、次のような点が挙げられている。大別すると「学習システム・制度」「学習内容」「学習方法」「情報交換・交流」「卒業後の学習機会」等である。

学習システム・制度に関しては、「夏期のみでなく通年スクーリング、夜間スクーリングの便宜」「通学課程への聴講生・研究生の受入れ」「通学課程の受講と単位の認定」「他大学の通信教育との単位互換」「通信教育の大学院・夜間大学院の創設」等が期待されている。また「専攻学科にしばられず、随時、教科を自由に選べるようフリー・スタイルで学習したい」といった声に代表されるように、「専攻学科の枠にとらわれない教科目の自由選択」といった希望も出されている。

学習内容に関しては、家政学部のみでなく、「カウンセリング」「社会福祉」「社会教育」等に関する幅広い科目の開設が望まれており、資格に関しても「教員」以外に、「児童相談員」「カウンセラー」「社会福祉司」「社会教育関連職員」「消費生活アドバイザー」等の資格取得につながるような学習内容が求め

られている。教員採用が“狭き門”になってきている上に、通学課程に比べて卒業時の年齢が高い者が多く、各自の経験を活かせるような職種が志向され、また興味・関心のひろがりといったこともあるのであろう。このことは卒業後にカルチャーセンター等の民間の学習機関で学んでいる者たちの学習内容が「カウンセリング・福祉・教育」に関するものが最も多いことから裏付けられよう。

学習方法では「学習の進度に応じた、きめ細かい助言がほしい」「疑問や知りたいことがあった時、相談できる人があったらよい」「新しい情報を盛りこんだテキストが必要である」「テープ・ビデオ等の視聴覚教材の使用を考えてもらいたい」等「学習相談」「情報提供」とともに「教授方法」の改善が挙げられている。これに関連して「専任教員」「チューター」等を要望する者がかなりあることが注目される。

また、「卒業生が相互に情報を交換し合う機会をもちたい」「卒業生と在学生の交流の機会があったらよい」等在学中だけでなく、卒業後も相互に学び合いたいとする者や「学会の動向等最近の情報がほしい」「参考文献・資料紹介等を望んでいる」「再就職の際の情報とアドバイスがしてもらいたい」等情報提供を求めている者もある。

特に生涯学習への期待としては「専門的・系統的な公開講座を開催してほしい」「在学生だけでなく卒業生も参加できる学習会を地域で設けてもらいたい」「生涯にわたって学習していく姿勢を持つ者たちが、さまざまな学習の仕方ができる手だてとしての基地的役割を果たしてもらいたい」といった声はかなり多くの回答者たちから、共通の願いとして出されている。

七、今後の課題

通信課程での学習はいつでも、どこでも、誰でもが学ぶ必要がある時に、各自のライフ・スタイルに合わせ、状況に応じて学べる利点がある反面「職業生活、家庭生活との両立がむづかしい」「学習方法がわからない」「学習効果がつみにくい」「教員とのふれ合いが少ない」「仲間が得にくい」「専門書や資料の入手

が困難である」といった問題があることはすでに述べた通りである。

入学時の年齢が19歳から60歳台までと各年齢層にわたっており、入試といった関門がないことは、それだけ大学の門戸が開放されていると言えようが、入学者数に比べて卒業する者の割合がきわめて低く、卒業までに要した期間が10年に及ぶ者が2割に達していることからみても、女性の高等教育を推進する上で、今後検討を要する課題は多い。

① 学習システム・制度の柔軟化

入学動機でみたように、「大学卒業の資格」「職業上の資格」取得や「専門的知識・技術」の修得を目的として入学する者だけでなく「生きがい」や「生涯学習」の機会として学んでいこうとする者が近年、中高年齢層を中心に増えている。また高学歴化を反映して、短大・大学等を卒業して入学する者も増加する傾向にある。学習がよりスムーズになされるためには、前節で述べたように高等教育機関相互の連携を図り、柔軟な学習システム、制度を構築していくことが必要である。

② 多様なカリキュラムの検討

平均寿命の伸長、社会状況、産業構造、家族形態の変化等にもなあって、女性のライフサイクル、ライフコースも多様になってきている。入学時の職種も近年は、従来の「教員（中高・幼小・短大）」中心から「民間企業従事者」「栄養士」「看護婦・保母」「公務員」等と多彩である。高齢化、国際化、情報化社会の中で、女性の職種、職業形態は今後ますます多様になることが予想される。時代の流れに応じたカリキュラム、学習内容の検討が望まれよう。

また、本学の通信教育を選択した理由として「日本女子大学の校風」を挙げる者が「希望する学科があったから」といった理由を挙げる者について多くみられた。長年の伝統と実績の上に、21世紀に向けて本学独自の多面的な特色あるカリキュラムの編成が期待される。文部省の大学審議会においても大学教育改善の方向として「特色あるカリキュラムの編成と柔軟な教育組織の設計」が打ち出されており、「各大学において、自らの教育理念・目的に基づいた特色あるカリキュラムの編成・実施」が挙げられている（「大学教育部会における審

議の概要」(その2)平成2年7月)。

③ 相互学習の機会の拡充

学習継続上の問題点・改善点でもみたように、通信による学習では、ヒューマン・コンタクト、ヒューマン・リレーションシップが欠けがちである。学習への動機づけ、刺激が少なく“孤独な学習”に陥った結果、学習を断念する者も出てこよう。

在学中の満足度が最終年次に実施する「軽井沢三泉寮」での総合面接(合宿)が最も高く、またスクーリングでもゼミ方式の学習の評価が高かったことからみても、人との出会い、ふれ合いによる学習が求められている。通信課程で学ぶ者は概して生活体験が豊かであり、相互に経験を交換し合うことによる学習上の利点も多く、それだけ学習効果も高まることが期待できる。

学習者相互のネットワークを図り、夏期のスクーリング、春秋二回の学習会にとどまらず、相互学習の機会を拡充していくことが望まれる。その際、前節の「生涯学習への期待」で出されていたように卒業生との交流、また通信課程の学生間のみでなく、通学課程の学生、卒業生を含めた相互交流を積極的に推めていく方向が望まれる。この観点からも、本学卒業生の団体である桜楓会の活動との連携を密にしていくことが期待されよう。

創立者成瀬仁蔵先生は生涯教育の一環としての桜楓会と通信教育部のつながりについて「わが国の女子は学校にいる間は、研究も修養もあるところまでは進歩するのであるが、一たび校門を辞するとたちまちこれまでの決心を忘れ、或は鈍らせて退歩し始め、無意味に生命のない生涯を送るものが少なくない。今年桜楓会が通信教育会を起し、女子大学講義を発行したのはこの欠点を補うためである。こうして今後はこの講義録の働きを助けるために、桜楓会員と講義録の会員との会合を開き、講義録についてもいっそう深く研究し、或は応用の経験を交換して、大学の門に入ることのできない人のためにも、これによって高等教育を受け、生涯進んでいく道を開くことができるようにしたい」とその抱負を語っている(「今後の女子教育」参照)。

④ 教授方法・指導体制の改善・整備

通信課程では通学課程に比べて学習者は各年代層にわたっている。指導に際しても、成人学習者の特質を理解し、重視した教授方法を検討する必要がある。すでに述べたように学習の援助者として、相互の経験交流の推進者として、また学習相談・情報提供者として、チューター制度を取り入れることも考えられよう。その際チューターのトレーニングも必要になってこよう。特に、通信課程専任教員の要望が高いことを考慮して、指導体制を整備していくことが急がれる。

前述の大学審議会においても「学生の学習の充実」の項の中で「ゼミナール形式の授業、ティーチング・アシスタントの活用等により、一方的な知識の伝達にとどまらない双方向的授業が現在以上に重視される必要がある」点が取り上げられている。

⑤ 地域の学習機関との連携

通信課程の在学生、卒業生は、文字通り北は北海道から南は九州に至るまで広範囲にわたっている。他大学の通信教育や放送大学との単位互換のみでなく、居住地域の各高等教育機関や教育委員会が開催する事業（婦人大学や長寿学園などの専門講座）との連携を図ることも学習の一助になるであろう。一例として現在本研究所が川崎市の教育委員会とタイアップして行っている「ウィメンズ・ライフロング・カレッジ」の学習が挙げられる。（「ウィメンズ・ライフロング・カレッジ 89-ライフロジー（生活学）報告書」川崎市教育委員会・日本女子大学女子教育研究所参照）。

（注3）ウィメンズ・ライフロング・カレッジは女性の多様化、高度化する学習要求に対応した生涯学習を推進するために、高等教育機関と連携して、相互の人的・物的教育資源を活用し、女性のリーダーを養成して地域の学習活動を援助するものである。テーマは「カウンセリング」「女性学」「家庭教育」等地域の状況に則して実施機関において自由に設定する。学習時間は30時間以上、人数50人程度。

その他「今後、男性も一緒に育児や食物学を学んでいかれるような方向を望んでいる」「通信教育卒業生の社会的地位の向上、通信課程への偏見の是正に大学側も努力してほしい」といった声もあり、これらの期待にどうこたえていくかといったことも今後の検討課題であろう。

おわりに

今回の調査を通して、通信教育課程卒業生の本学の卒業生として、創立者の意志を体して、生涯にわたって自分自身を生長発展させ、社会に貢献していきたいとする意欲、熱意が読みとれたことはまことに喜ばしく、心強いことであった。

本調査の実施に当っては、はじめに述べたように通信教育部の全面的な協力を得たが、特に岸田鶴之助通信教育事務部部长、橘安子前通信教育総務課長のご尽力に負うところが多い。ここに記して感謝するとともに、通信教育部の一層の発展を願うものである。

同時に、本調査に回答を寄せられた卒業生各位に深甚の謝意を表し、今後のご活躍を期待する次第である。

なお、女子高等教育の現状と課題に関しては、本研究所編「女子の高等教育」女子教育研究双書8巻をご一読いただければ幸である。

資料 調査表

通信教育課程卒業生に対する調査

日本女子大学女子教育研究所

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

<記入について>

- 資料は統計的に処理し、個人名を出すようなことはありません。
- 各事項について、該当する(またはできるだけ近いもの)数字に○印をつけるか、()の中に具体的に記入してください。
- 矢印 → のある場合は、矢印に従って次の質問に進んでください。

◇ ◇

≪通信教育課程在学中の学習についてお伺いします≫

- 1) A 専攻学科 1. 児童学科 2. 食物学科 3. 生活芸術学科
- B (f) 在学していた期間 昭和()年から 昭和()年まで
- (e) 在学形態 { 1. ずっと継続して在学 2. 一時中断していたことがある
3. その他(具体的に) }
- (f) 「学習友の会」(「クラス会」)委員の経験 1. ある(年間) 2. ない
- C (f) 入学時の年齢()歳 (e) 入学時の居住地()都・道・府・県
- D 通信教育課程に入学する前の最終学歴

- (f) 出身校
- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 1. 旧制女学校 | 2. 師範学校 | 3. 旧制女子専門学校 |
| 4. 全日制高校 | 5. 定時制高校 | 6. 通信制高校 |
| 7. 高等専門学校等 | 8. 短期大学 | 9. 四年制大学 |
| 10. 大学・短大・高専中退 | 11. 大学入学資格検定合格 | 12. その他具体的に |

- (e) 高校のどの学科を卒業しましたか。 ()
- | | | | |
|------------|-----------|--------|---------------------|
| 1. 普通科 | 2. 工業科 | 3. 商業科 | (f) 専攻学科をお書きください。 ← |
| 4. 農業・林業科 | 5. 水産科 | () | |
| 6. 家庭(家政)科 | 7. その他() | | |

(全員に) (e) 出身校卒業年 大正()年 (大正・昭和のいずれかに○印をつける)
昭和

- E 入学形態 1. 1年次入学 2. 編入学 3. 学士入学

- F 入学時の職業
- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

- (e) 職種 主なもの1つについて具体的にお書き下さい ()
- (f) 勤務形態
- | | | |
|-----------------------------------|----------------|-------------|
| 1. フルタイム | 2. パートタイム | 3. 在宅勤務 |
| 4. 派遣労働 | 5. 非常勤・臨時 | 6. アルバイト |
| 7. 自由業(フリーワーカー) 例えば 翻訳、著述業、スタイリスト | 8. 自営業(塾経営を含む) | |
| 9. 家内労働(自営手伝い) | 10. 内職 | 11. その他 () |

(全員に) G 入学時に、家族として日常生活をともにした人(あてはまる数字すべてに○印をつける)

- | | | |
|---------------|------------|-----------------|
| 1. 単身 | 2. 夫 | 3. 子ども(乳幼児) |
| 4. 子ども(小学生以上) | 5. 自分の父 | 6. 自分の母 |
| 7. 夫の父 | 8. 夫の母 | 9. 孫 |
| 10. 自分の祖父母 | 11. 夫の祖父母 | 12. 自分のきょうだい |
| 13. 夫のきょうだい | 14. その他の親類 | 15. その他 (具体的に) |

この欄には記入しないでください。

A		7
B		8
		9
C	10	11
	12	13
D		14
		15
		16
		17
E		18
F		19
		20
		21
		22
G		23
		24
		25
		26
		27
		28
		29
		30
		31
		32
		33
		34
		35
		36
		37
		38

- 2) A あなたが大学教育を受けたいと思ったのはどんな理由からですか。(2つ以内)
1. 大学卒業の学歴、資格を得たいから
 2. 専門的知識や技術を得たいから
 3. 教養を高めたいから
 4. まわりが行っているから
 5. 社会的視野を広げるため
 6. 生きがいとして
 7. 更に上級の資格を得たいから
 8. 職業上の資格を得たいから
 9. 生涯学習の一環として
 10. その他(具体的に _____)

A

39	40

- B あなたが特に通信教育課程を選んだのはどんな理由からですか。(1つ)
1. 入学しやすいから
 2. いつでも学べるから
 3. どこでも学べるから
 4. だれでも学べるから
 5. 能力に応じて学習できるから
 6. 家庭や仕事の事情に応じて学習できるから
 7. 経費が安いから
 8. その他(具体的に _____)

B

41

- C 特に日本女子大学の通信教育課程を選んだ理由を具体的にお書きください。
- (_____)

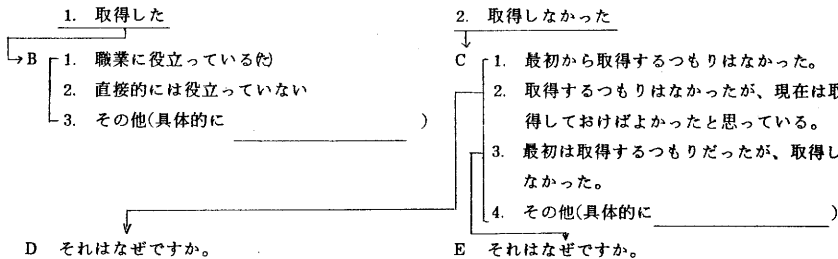
C

42	43

- 3) どのような理由から学科を選びましたか。(1つ)
1. その分野が好きだったから
 2. 取得したい免許がとれるから
 3. 家庭生活に役立つと思ったので
 4. 職業に役立てたいから
 5. 特に理由はない
 6. その他(具体的に _____)

44

- 4) A あなたは在学中に教員免許を取得しましたか。



A

45

B

46	47

C

48	49

D

48	49

E

48	49

(全員に) 5) 夏期スクーリングについてお答えください。

- A スクーリング中の住居はどこでしたか。(2つ以内)
1. 自宅
 2. 下宿(食事付)
 3. 下宿(自炊又は外食)
 4. 学寮
 5. 県人寮
 6. 親類・知人・友人宅
 7. その他(具体的に _____)

A

50	51

- B 小学校低学年以下のお子さんのいた方は、スクーリング出席中、お子さんの面倒をどうしましたか。(2つ以内)
1. 日本女子大学のナースリーにあずけた
 2. 保育所等を利用した
 3. 他者に托した
 4. 子どもだけで過ごさせた。
 5. その他(具体的に _____)

B

52	53

- C それは誰ですか。(3つ以内)
1. 夫
 2. 自分の父母
 3. 夫の父母
 4. 自分のきょうだい
 5. 夫のきょうだい
 6. その他の親類
 7. 地域の友人・知人
 8. ベビーシッター
 9. その他
- (具体的に _____)

C

54	55
56	

- D 在学中職業をもっていた方は、スクーリング出席のため職場ではどのような扱いになりましたか。(1つ)

D

57
58

(注 最も長かった職場について、お答えください)

1. 有給
 2. 有給と無給半々
 3. 無給
 4. 休職
 5. 退職
 6. その他
- (具体的に _____)

(全員に)6) A あなたは在学中、下記の点でどの程度満足しましたか。それぞれについてあてはまる数字に○印をおつけ下さい。

	大いに満足	やや満足	やや不満	大いに不満
	4	3	2	1
1. テキスト(指導書を含む)について.....	-----	-----	-----	-----
2. 派削指導について.....	-----	-----	-----	-----
3. 専門的知識・技術の修得.....	-----	-----	-----	-----
4. 学習会について.....	-----	-----	-----	-----
5. 学友とのつながり(学習友の会、クラス会など).....	-----	-----	-----	-----
6. 教師とのつながり.....	-----	-----	-----	-----
7. 「女子大通信」について.....	-----	-----	-----	-----
8. 総合面接(軽井沢三泉寮)について.....	-----	-----	-----	-----
9. 事務局との関係.....	-----	-----	-----	-----
10. 学費について.....	-----	-----	-----	-----
11. 学寮(スクーリング期間利用した者のみ).....	-----	-----	-----	-----

B 全体としては、どの程度満足しましたか。

大いに満足	やや満足	やや不満	大いに不満
4	3	2	1
-----	-----	-----	-----

C 特によかった点について、具体的に書いてください。

()

D 特に不満だった点について、具体的に書いてください。

()

7) A あなたは在学中学習の継続に困難を感じたことがありますか。

1. ある

2. ない

→ B それどのような時でしたか。(3つ以内)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 学習に興味を失った | 2. 仕事との両立がむずかしい |
| 3. 職場の理解が得にくい | 4. 学習内容がむずかしい |
| 5. 学習方法がわからない | 6. 専門書や資料の入手が困難である |
| 7. 学習施設(図書館など)が不備である | 8. スクーリングに出られない |
| 9. 学習効果があかみにくい | 10. 友人と共に学べない |
| 11. 気軽に相談する相手がいない | 12. 経済的負担がかかりすぎる |
| 13. 結婚 | 14. 妊娠・出産 |
| 15. 育児 | 16. 家事 |
| 17. 病人や老親介護 | 18. 夫の転勤 |
| 19. 自分の健康 | 20. 家族の理解が得にくい |
| 21. その他(具体的に |) |

A1

2	59
3	60
4	61
5	62
6	63
7	64
8	65
9	66
10	67
11	68
	69

B

--

70

C

71	72	73

D

74	75	76

A

--

77

B

78
79
80

--

81

(全員に)8) あなたが通信教育課程に学んで、不満に思った点、改善したらよいと思う点について、A～Fの
あてはまる数字に○印をおつけください。

A 制度について

1. 通信課程から通学課程への編入の便宜
2. 他大学の通信課程および放送大学で修得した単位の認定
3. 他の高等教育機関(専門学校を含む)で修得した単位の認定
4. 通信教育課程専任教員の必要性
5. 男子学生の入学
6. 学習援助者(チューター)制度の導入
7. その他(具体的に _____)

B スクーリングについて

1. 夜間スクーリングの開設
2. 平日スクーリングの開設
3. 地方スクーリングの開設
4. 季節スクーリングの開設
5. 通年スクーリングの拡大
6. その他(具体的に _____)

C カリキュラムについて

1. 専門科目の増設(具体的に _____)
2. スクーリング開講科目の増設
3. 通学課程と同一カリキュラム
4. 専攻学科の増設(現在ある3学科以外に)
(具体的に _____)
5. その他(具体的に _____)

D テキストについて

1. 内容の改訂
2. 写真・イラスト等を入れてわかりやすくする
3. テープ・ビデオ化をはかる
4. 担当教員以外の先生の著書もテキストとして使用する
5. その他(具体的に _____)

E 学習方法・形態について

1. ビデオ等の視聴覚教材の利用
2. 学習会の活性化
3. レポート添削の返送期限の短縮
4. 質問紙の活用
5. 卒業時のまとめのあり方(論文提出など)
6. 授業内容についてのガイダンス、助言・指導の充実
7. 学習方法についてのガイダンス、助言・指導の充実
8. その他(具体的に _____)

F 施設・設備について

1. 教室、実験室の整備(冷暖房、照明、視聴覚機器等)
2. 保育施設・ナースリーの拡充・整備
3. 学童保育施設の設置
4. その他(具体的に _____)

G その他お気づきの点があったら書きください。

(_____)

A1		82
2		
3		83
4		84
5		85
6		86
7		87
B1		88
2		89
3		90
4		91
5		92
6		93
		94
C1		
2		95
3		96
4		97
5		98
6		99
	C4	
		100
		101
		102
		103
D		105
1	2	3
4	5	106
		107
E		108
		109
		110
		111
		112
		113
		114
		115
		116
F		
		119
G	117	118
		120
		121
		122
		123
		124
		125
		126

9) A 通信教育課程を卒業したことが、通学課程に比べて職業生活や社会生活で、何かハンディや不利益になると感じることがありますか。

1. ある 2. ない

B それはどんなことですか。

10) A あなたは通信教育課程を卒業後、系統的、継続的な学習をしましたか(しています)か。

1. 学習した(している) 2. していない

B それはどのような学習ですか。あてはまる数字に○印をつけ具体的にお答えください。(2つ以内)

1. 大学への再入学(_____ 大学 _____ 専攻)
2. 他大学の通信課程への再入学(_____ 大学 _____ 専攻)
3. 大学院進学(_____ 大学院 _____ 専攻)
4. 専修学校(専門学校など)入学(_____ 学校 _____ 専攻)
5. 民間の学習機関(カルチャーセンターなど)(学習内容 _____)
6. 公民館等の講座・市民大学など(学習内容 _____)
7. 大学の公開講座(学習内容 _____)
8. その他(具体的に _____)

C あなたが上記の機関で学習した(している)理由はどんなことですか。

《卒業後の職業について、お伺いします》

1) A 現在、職業に就いていますか。

1. 現在、職業に就いている 2. 現在は就いていないが、過去に就いたことがある。
3. 現在も過去も、職業に就いたことがない。

B それはどんな職業ですか。職種・勤務形態についてお答えください。

職種 (具体的に、例えば、小学校教諭、会社事務、消費生活アドバイザー、児童相談所相談員など)

勤務形態

1. フルタイム 2. パートタイム 3. 在宅勤務 4. 派遣労働
5. 非常勤・臨時 6. アルバイト 7. 自由業(フリーワーカー、例えば、翻訳、著述業、スタイリスト)
8. 自営業(塾経営を含む) 9. 家内労働(自営手伝い) 10. 内職
11. その他(具体的に _____)

C (現在職業に就いている方、あるいは在学中もしくは卒業後職業に就いていたことがある方に)

通信教育課程を卒業したことが、仕事上や就職、転職に必要だったり、役に立ったと思いますか。

1. 思う 2. 思わない

D それはどのような点ですか。あてはまる数字に○印をつけ、具体的にお書きください。

1. 職種 (例えば、学校事務員から教員になったなど)
2. 地位・待遇 (例えば、補助教員から正教員になった、短大の副手・助手から講師になったなど)
3. 勤務形態 (例えば、非常勤から常勤になったなど)
4. その他 (具体的に _____)

A 127

B 128 129

A 130

B 131 132

1 133

2 134

3 135

4 136

5 137

6 138

7 139

8 140

C 141 142

A 143

144 145

146

C 147

D 148 152

2 149 153

3 150 154

4 151 155

156

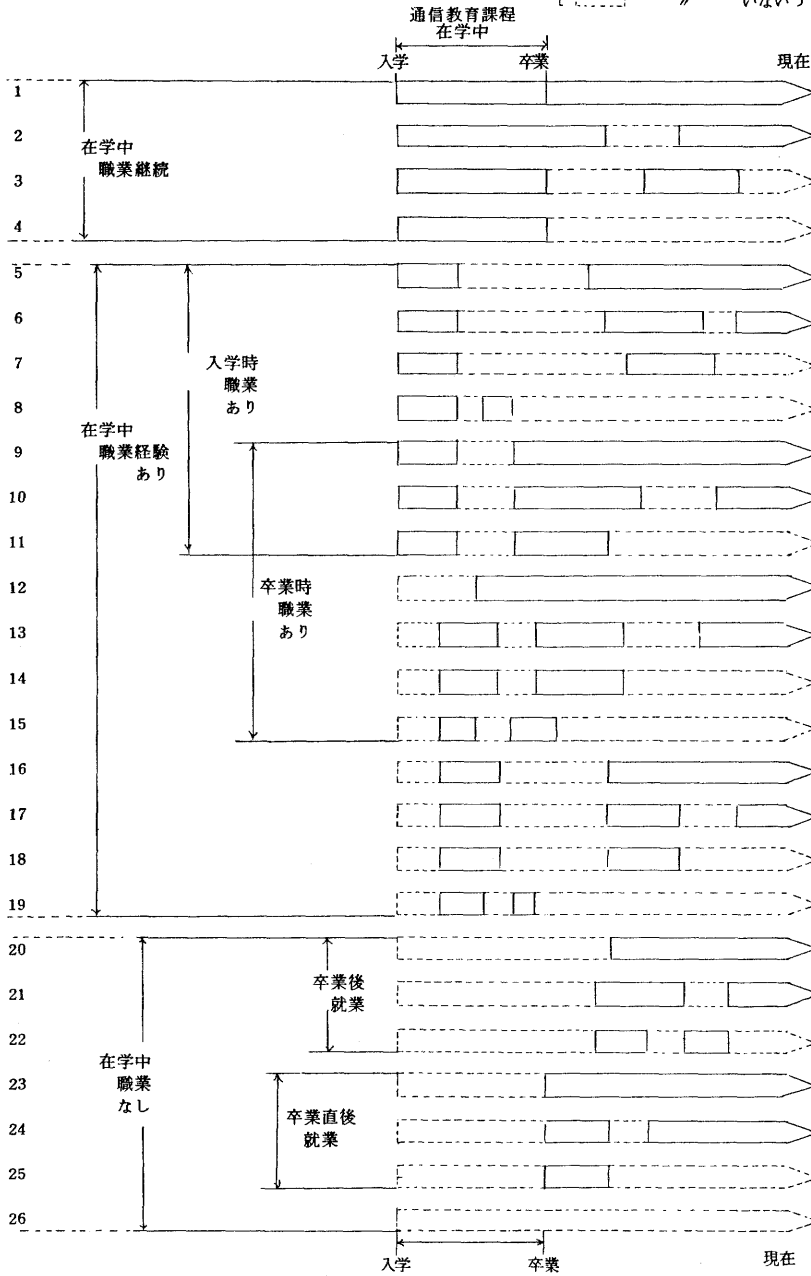
157 158

E (現在職業に就いている方、あるいは在学中もしくは卒業後職業に就いていたことがある方に)

通信教育課程に入学してから現在までの就業パターンについて、1～27の中から最もよくあてはまるものを1つだけ選んで○印をおつけください。

仕事に就いている
 " " いない

E
159



27 上記にあてはまらない場合は具体的にお書きください。

平成3年3月7日

編集・発行者 日本女子大学女子教育研究所

東京都文京区目白台2-8-1

電話 3942-6182

印刷所 教育開発協会
